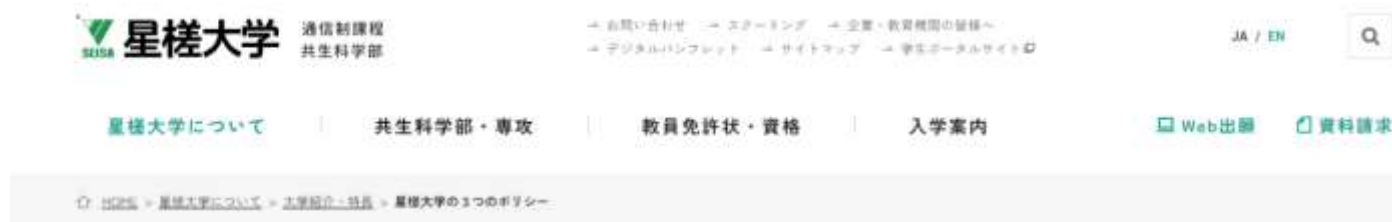


<https://seisa.ac.jp/about/outline/policy/>

## 星槎大学の3つのポリシー

### アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

星槎大学は、通信制課程のみを設置する大学として、学ぶ機会をすべての人に対し平等に拓くと共に、「共生科学」を学問分野とした教育研究活動を行っています。「学びたい」と感じたときがその人にとっての学びの適期であり、その「学び方」も多様であるとの考え方から、社会人も含めたあらゆる方にとっての学びやすさを提供しています。

星槎大学では、このような考え方にに基づき、大学の教育理念に共感し、強い意欲をもって学び、かつその学びを社会における実践に繋げていく志をもつ人を広く受け入れます。

### カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

星槎大学では、その理念に基づいて、通信制課程ならではの多様な学生に応じて、学位授与の方針に掲げる人材を養成するために、以下の方針で教育課程を編成しています。

- すべての学生が必ず修める科目として、人と人、人と自然、国と国の三つの領域に関わる「共生科学概説」2科目を置き、4年次編入の学生でも、星槎共生スピリットを身につけることとします。
- 三つの領域を深く学ぶために、「共生科学概説」を中心に、コアカリキュラムを配置し、その中心的な科目として、共生科学基礎科目(選択必修科目)を開設します。
- 学士課程を構成する科目として、教養科目(選択必修科目)を開設します。
- 専門科目として、専攻専門科目(専攻ごと選択必修科目)を開設(共生科学専攻専門科目群、初等教育専攻専門科目群、福祉専攻専門科目群、スポーツ身体表現専攻専門科目群、グローバルコミュニケーション専攻専門科目群)し、専攻を越えて領域横断的に学べるようにします。
- 共通専門科目を、共生科学専攻専門科目群に開設し、専攻を越えて学べるようにします。
- 共生科学専攻専門科目群は、共通専門科目以外には、教育、特別支援教育、環境、国際関係に区分して開設します。
- 資格関連科目群については、教職課程等に必要科目を開設します。
- 学修の集大成として、「卒業論文」と「共生研究」、「卒業制作」を開設します。

## ディプロマポリシー（学位授与の方針）

星堡大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の醸成」「課題探究能力の育成」「インターローション教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星堡共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

- A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
- B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
- C. 共生理解教育の理念を認識し、実践すること。
- D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星堡の三つの約束の精神に照って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
- E. 個人や社会によって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
- F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

## 2021 年度教職課程における科目別担当教員 一覧

&lt; 共生科学部 &gt;

○領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）

| 科目名            | 担当者    |
|----------------|--------|
| 教科（国語）         | 嶋田優教授  |
| 教科（算数）         | 永井礼正教授 |
| 教科（生活）         | 兼任教員   |
| 教科（音楽）         | 坂田映子教授 |
| 教科（図画工作）       | 檜永卓三教授 |
| 教科（体育）         | 兼任教員   |
| 保育内容の指導法（健康）   | 兼任教員   |
| 保育内容の指導法（人間関係） | 兼任教員   |
| 保育内容の指導法（環境）   | 兼任教員   |
| 保育内容の指導法（言葉）   | 嶋田優教授  |
| 保育内容の指導法（音楽表現） | 坂田映子教授 |
| 保育内容の指導法（造形表現） | 檜永卓三教授 |
| 保育内容の指導法（総合演習） | 兼任教員   |

○教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）

| 科目名                 | 担当者                 |
|---------------------|---------------------|
| 教育原理（初等）            | 兼任教員                |
| 教職概論（初等）            | 天野一哉教授              |
| 教育経営・学校安全論（初等）      | 兼任教員                |
| 教育心理学（初等）           | 兼任教員                |
| 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解 | 土岐玲奈講師・岩澤一美准教授      |
| 教育課程論（初等）           | 水内宏特任教授             |
| 教育方法・技術論（初等）        | 斎藤俊則准教授・仲久徳教授       |
| 幼児理解の理論と方法          | 兼任教員                |
| 教育相談（初等）            | 兼任教員                |
| 教育実習（初等）（１）         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |
| 教育実習（初等）（２）         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |
| 教職実践演習（初等）          | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・丸本茂樹教授 |

○教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）

| 科目名         | 担当者      |
|-------------|----------|
| 教科（国語）      | 嶋田優教授    |
| 教科（社会）      | 兼任教員     |
| 教科（算数）      | 永井礼正教授   |
| 教科（理科）      | 浅見奈緒子准教授 |
| 教科（生活）      | 兼任教員     |
| 教科（音楽）      | 坂田映子教授   |
| 教科（図画工作）    | 檜永卓三教授   |
| 教科（家庭）      | 齋藤憲子教授   |
| 教科（体育）      | 兼任教員     |
| 教科（外国語）     | 兼任教員     |
| 初等教科教育法（国語） | 嶋田優教授    |

|               |             |
|---------------|-------------|
| 初等教科教育法（社会）   | 兼任教員        |
| 初等教科教育法（算数）   | 金子肇教授       |
| 初等教科教育法（理科）   | 西村哲雄教授・兼任教員 |
| 初等教科教育法（生活）   | 兼任教員        |
| 初等教科教育法（音楽）   | 坂田映子教授      |
| 初等教科教育法（図画工作） | 檜永卓三教授      |
| 初等教科教育法（家庭）   | 齋藤憲子教授      |
| 初等教科教育法（体育）   | 兼任教員        |
| 初等教科教育法（外国語）  | 兼任教員        |

○教育の基礎的理解に関する科目（小学校）

| 科目名                 | 担当者                 |
|---------------------|---------------------|
| 教育原理（初等）            | 兼任教員                |
| 教職概論（初等）            | 天野一哉教授              |
| 教育経営・学校安全論（初等）      | 兼任教員                |
| 教育心理学（初等）           | 兼任教員                |
| 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解 | 土岐玲奈講師・岩澤一美准教授      |
| 教育課程論（初等）           | 水内宏特任教授             |
| 道徳の理論・指導法（初等）       | 大隅心平教授              |
| 総合的な学習の時間の指導法（初等）   | 兼任教員                |
| 特別活動の指導法（初等）        | 丸本茂樹教授              |
| 教育方法・技術論（初等）        | 斎藤俊則准教授・仲久徳教授       |
| 生徒・進路指導論（初等）        | 大隅心平教授              |
| 教育相談（初等）            | 兼任教員                |
| 教育実習（初等）（１）         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |
| 教育実習（初等）（２）         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |
| 教職実践演習（初等）          | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・丸本茂樹教授 |

○大学が独自に設定する科目（幼稚園／小学校）

| 科目名                   | 担当者                 |
|-----------------------|---------------------|
| 生涯学習論                 | 三輪建二教授              |
| 発達障害概論                | 西永堅教授               |
| 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 兼任教員                |
| 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 兼任教員                |
| ワーク・ライフ・バランス論         | 兼任教員                |
| アクティブラーニング演習          | 天野一哉教授              |
| 多様な幼児・児童の支援演習         | 阿部利彦教授              |
| 学校ボランティア（初等）Ⅰ         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |
| 学校ボランティア（初等）Ⅱ         | 嶋田優教授・齋藤憲子教授・坂田映子教授 |

○教科及び教科の指導法（中学社会）

| 科目名       | 担当者    |
|-----------|--------|
| 歴史概説Ⅰ     | 堀川徹講師  |
| 歴史概説Ⅱ     | 兼任教員   |
| アジアの近代と社会 | 東智美准教授 |

|                 |         |
|-----------------|---------|
| 地理概説Ⅰ           | 兼任教員    |
| 地理概説Ⅱ           | 兼任教員    |
| 風土と内発的発展        | 鬼頭秀一教授  |
| 地理情報システム（GIS）演習 | 兼任教員    |
| 法学Ⅰ             | 兼任教員    |
| 法学Ⅱ             | 兼任教員    |
| 国際法             | 兼任教員    |
| 国際関係論           | 大嶋英一教授  |
| 環境法             | 兼任教員    |
| 政治学             | 兼任教員    |
| 社会学             | 細田満和子教授 |
| 経済学             | 兼任教員    |
| 医療社会学           | 細田満和子教授 |
| 比較文化論           | 伊藤玄二郎教授 |
| 環境社会学           | 保屋野初子教授 |
| 国際ジャーナリズム論      | 佐々木伸教授  |
| 問題解決のための国際協働論   | 坪内俊憲教授  |
| 哲学・倫理学          | 兼任教員    |
| 宗教学             | 兼任教員    |
| 環境倫理            | 鬼頭秀一教授  |
| 公共哲学            | 山脇直司教授  |
| 公共演習            | 山脇直司教授  |
| 平和演習            | 兼任教員    |
| 人権演習            | 兼任教員    |
| 社会科・公民科指導法Ⅰ     | 手島純教授   |
| 社会科・公民科指導法Ⅱ     | 手島純教授   |
| 社会科・公民科指導法Ⅲ     | 手島純教授   |
| 社会科・公民科指導法Ⅳ     | 手島純教授   |

○教科及び教科の指導法（高校地歴）

| 科目名             | 担当者    |
|-----------------|--------|
| 日本史Ⅰ            | 堀川徹講師  |
| 日本史Ⅱ            | 堀川徹講師  |
| 日本史演習           | 堀川徹講師  |
| 歴史概説Ⅰ           | 堀川徹講師  |
| 外国史Ⅰ            | 兼任教員   |
| 外国史Ⅱ            | 兼任教員   |
| 外国史演習           | 兼任教員   |
| 歴史概説Ⅱ           | 兼任教員   |
| アジアの近代と社会       | 東智美准教授 |
| 人文地理学           | 兼任教員   |
| 自然地理学           | 兼任教員   |
| 地理概説Ⅰ           | 兼任教員   |
| 地理概説Ⅱ           | 兼任教員   |
| 地理情報システム（GIS）演習 | 兼任教員   |
| 地誌概論            | 兼任教員   |
| 地誌              | 兼任教員   |

|           |        |
|-----------|--------|
| 風土と内発的発展  | 鬼頭秀一教授 |
| 地理歴史科指導法Ⅰ | 兼任教員   |
| 地理歴史科指導法Ⅱ | 兼任教員   |

○教科及び教科の指導法（高校公民）

| 科目名           | 担当者     |
|---------------|---------|
| 法学Ⅰ           | 兼任教員    |
| 国際法           | 兼任教員    |
| 法学Ⅱ           | 兼任教員    |
| 国際関係論         | 大嶋英一教授  |
| 環境法           | 兼任教員    |
| 政治学           | 兼任教員    |
| 社会学           | 細田満和子教授 |
| 経済学           | 兼任教員    |
| 医療社会学         | 細田満和子教授 |
| 比較文化論         | 伊藤玄二郎教授 |
| 環境社会学         | 保屋野初子教授 |
| 国際ジャーナリズム論    | 佐々木伸教授  |
| 問題解決のための国際協働論 | 坪内俊憲教授  |
| 哲学・倫理学        | 兼任教員    |
| 宗教学           | 兼任教員    |
| 心理学（１）        | 兼任教員    |
| 心理学（２）        | 兼任教員    |
| 公共哲学          | 山脇直司教授  |
| 環境倫理          | 兼任教員    |
| 公共演習          | 山脇直司教授  |
| 平和演習          | 兼任教員    |
| 人権演習          | 兼任教員    |
| 社会科公民科指導法Ⅰ    | 手島純教授   |
| 社会科公民科指導法Ⅱ    | 手島純教授   |
| 社会科公民科指導法Ⅲ    | 手島純教授   |
| 社会科公民科指導法Ⅳ    | 手島純教授   |

○教科及び教科の指導法（中学保健体育及び高校保健体育）

| 科目名    | 担当者                 |
|--------|---------------------|
| 体づくり運動 | 高木由起子講師・兼任教員２名      |
| 器械運動   | 兼任教員４名              |
| 陸上     | 秋澤一輝助教・渋谷聡教授・兼任教員３名 |
| 水泳     | 高木由起子講師・兼任教員５名      |
| サッカー   | 兼任教員５名              |
| バレーボール | 渋谷聡教授・兼任教員２名        |
| 野球     | 兼任教員２名              |
| 柔道     | 兼任教員４名              |
| ダンス    | 兼任教員４名              |
| バドミントン | 兼任教員３名              |
| スポーツ原理 | 兼任教員                |

|           |                |
|-----------|----------------|
| スポーツ心理学   | 渋谷聡教授・兼任教員     |
| スポーツ経営管理論 | 兼任教員           |
| スポーツ社会学   | 兼任教員           |
| 体育史       | 兼任教員           |
| 運動学       | 兼任教員           |
| 生理学       | 兼任教員           |
| スポーツ生理学   | 兼任教員           |
| 解剖学       | 兼任教員           |
| 衛生学       | 兼任教員           |
| 公衆衛生学     | 細田満和子教授        |
| 学校保健概論    | 兼任教員           |
| 救急処置法     | 兼任教員           |
| 陸上演習      | 渋谷聡教授・秋澤一輝助教   |
| 球技演習      | 高木由起子講師・兼任教員   |
| 武道演習      | 兼任教員           |
| ダンス演習     | 兼任教員 3 名       |
| 保健体育科指導法Ⅰ | 渋谷聡教授・兼任教員 2 名 |
| 保健体育科指導法Ⅱ | 高木由起子講師・兼任教員   |
| 保健体育科指導法Ⅲ | 渋谷聡教授・兼任教員     |
| 保健体育科指導法Ⅳ | 高木由起子講師・兼任教員   |

#### ○教科及び教科の指導法（中学英語及び高校英語）

| 科目名                | 担当者              |
|--------------------|------------------|
| 英語学概論Ⅰ             | 兼任教員             |
| 英語学概論Ⅱ             | 兼任教員             |
| 英語文学論（1）           | 兼任教員             |
| 英語文学論（2）           | 兼任教員             |
| 英語文学講読（1）          | 兼任教員             |
| 英語文学講読（2）          | 兼任教員             |
| 実践英語コミュニケーションⅠ     | ダニエル・ジョセフ・ウッズ准教授 |
| 実践英語コミュニケーションⅡ     | 平岡麻里教授           |
| 英語表現（writing）      | ダニエル・ジョセフ・ウッズ准教授 |
| 英語表現（conversation） | 平岡麻里教授           |
| 英語表現（presentation） | ダニエル・ジョセフ・ウッズ准教授 |
| 異文化理解              | 大和洋子教授           |
| 異文化間コミュニケーション      | ダニエル・ジョセフ・ウッズ准教授 |
| 国際関係論              | 大嶋英一教授           |
| 比較文化論              | 伊藤玄二郎教授          |
| 国際ジャーナリズム論         | 佐々木伸教授           |
| 英語演習（1）            | 平岡麻里教授           |
| 英語演習（2）            | 大和洋子教授           |
| 英語科指導法Ⅰ            | 大和洋子教授           |
| 英語科指導法Ⅱ            | 兼任教員             |
| 英語科指導法Ⅲ            | 兼任教員             |
| 英語科指導法Ⅳ            | 大和洋子教授           |

○教育の基礎的理解に関する科目（中等）

| 科目名               | 担当者                                    |
|-------------------|----------------------------------------|
| 教育原理（中等）          | 兼任教員                                   |
| 教職概論（中等）          | 手島純教授                                  |
| 教育経営・学校安全論（中等）    | 兼任教員                                   |
| 教育心理学（中等）         | 仁平義明教授                                 |
| 特別の支援を必要とする生徒の理解  | 斎藤やす子准教授・岩澤一美准教授                       |
| 教育課程論（中等）         | 水内宏特任教授                                |
| 道徳の理論・指導法（中等）     | 兼任教員                                   |
| 総合的な学習の時間の指導法（中等） | 兼任教員                                   |
| 特別活動の指導法（中等）      | 兼任教員                                   |
| 教育方法・技術論（中等）      | 仲久徳教授・兼任教員                             |
| 生徒・進路指導論（中等）      | 兼任教員 2 名                               |
| 教育相談（中等）          | 斎藤やす子准教授                               |
| 教育実習（中等）Ⅰ（１）      | 斎藤やす子准教授・兼任教員                          |
| 教育実習（中等）Ⅰ（２）      | 斎藤やす子准教授・兼任教員                          |
| 教育実習（中等）Ⅱ         | 斎藤やす子准教授・兼任教員                          |
| 教職実践演習（中等）        | 丸本茂樹教授・渋谷聡教授・高木由起子講師・手島純教授・大和洋子教授・兼任教員 |

○大学が独自に設定する科目（中等）

| 科目名                   | 担当者           |
|-----------------------|---------------|
| 生涯学習論                 | 三輪建二教授        |
| 発達障害概論                | 西永堅教授         |
| 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 兼任教員          |
| 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 兼任教員          |
| ワーク・ライフ・バランス論         | 兼任教員          |
| 授業実践演習（中等）            | 仲久徳教授         |
| アクティブラーニング演習          | 天野一哉教授        |
| 多様な生徒の支援演習            | 阿部利彦教授        |
| 学校ボランティア（中等）Ⅰ         | 斎藤やす子准教授・兼任教員 |
| 学校ボランティア（中等）Ⅱ         | 斎藤やす子准教授・兼任教員 |

○特別支援学校（知・肢・病）

| 科目名               | 担当者     |
|-------------------|---------|
| 特別支援教育論           | 千田光久教授  |
| 障害児教育総論           | 兼任教員    |
| 知的障害児・者の心理・生理・病理  | 伊藤一美准教授 |
| 肢体不自由児・者の心理・生理・病理 | 兼任教員    |
| 病弱児・者の心理・生理・病理    | 兼任教員    |
| 知的障害児・者への支援       | 西永堅教授   |
| 肢体不自由児・者への支援      | 兼任教員    |
| 病弱児・者への支援         | 兼任教員    |
| 知的障害教育総論          | 兼任教員    |
| 肢体不自由教育総論         | 兼任教員    |
| 病弱教育総論            | 兼任教員    |



|                  |        |
|------------------|--------|
| 自閉症児・者の心理        | 兼任教員   |
| 自閉症児・者への支援       | 兼任教員   |
| 聴覚障害教育総論         | 兼任教員   |
| 視覚障害教育総論         | 兼任教員   |
| 発達障害概論           | 西永堅教授  |
| 発達障害教育指導法（１）     | 古川潔講師  |
| 発達障害教育指導法（２）     | 阿部利彦教授 |
| 発達障害の判定とその教育的対応Ⅰ | 西永堅教授  |
| 発達障害の判定とその教育的対応Ⅱ | 西永堅教授  |
| 教育実習（特別支援）       | 千田光久教授 |

## <教育学研究科>

### ○小学校専修免許状

| 科目名              | 担当者     |
|------------------|---------|
| 教育社会学特論          | 兼任教員    |
| 教育心理学特論          | 仁平義明教授  |
| 教育工学特論           | 仲久徳教授   |
| 学校教育学特論          | 手島純教授   |
| 教育経営特論           | 兼任教員    |
| 発達教育学特論Ⅰ         | 水内宏特任教授 |
| 教育相談特論           | 土岐玲奈講師  |
| 教材・授業研究特論Ⅰ       | 仲久徳教授   |
| 教材・授業研究特論Ⅱ       | 仲久徳教授   |
| 学校教育心理学特論        | 仁平義明教授  |
| カリキュラム研究特論       | 水内宏特任教授 |
| 教材・授業研究Ⅰ（言語）     | 兼任教員    |
| 教材・授業研究Ⅱ（数理）     | 西村哲雄教授  |
| 教材・授業研究Ⅲ（表現）     | 檜永卓三教授  |
| 教材・授業研究Ⅳ（スポーツ身体） | 渋谷聡教授   |

### ○特別支援学校専修免許状（領域：知的障害者）

| 科目名             | 担当者     |
|-----------------|---------|
| 特別支援教育特論Ⅰ       | 千田光久教授  |
| 特別支援教育特論Ⅱ       | 千田光久教授  |
| 発達臨床特論Ⅰ         | 西永堅教授   |
| 発達臨床特論Ⅱ         | 西永堅教授   |
| 認知発達特論Ⅰ         | 伊藤一美准教授 |
| 認知発達特論Ⅱ         | 伊藤一美准教授 |
| 認知心理学特論Ⅰ        | 伊藤一美准教授 |
| 認知心理学特論Ⅱ        | 伊藤一美准教授 |
| 発達障害教育特論        | 仁平義明教授  |
| 発達障害教育指導法特論     | 岩澤一美准教授 |
| 教育のユニバーサルデザイン特論 | 阿部利彦教授  |
| 発達障害教育支援方法特論    | 阿部利彦教授  |
| ファシリテーション特論     | 三田地真実教授 |
| 応用行動分析学特論       | 兼任教員    |
| 発達障害と医療特論       | 兼任教員    |

# < 教育実践研究科 >

## ○小学校専修免許状

| 科目名             | 担当者                   |
|-----------------|-----------------------|
| 多文化共生教育特論       | 兼任教員                  |
| 発達臨床実践特論        | 岩澤一美准教授               |
| 教育のユニバーサルデザイン特論 | 阿部利彦教授                |
| 教育法規特論          | 兼任教員                  |
| 学級経営・学校経営特論     | 大隅心平教授                |
| 教育社会学特論         | 石原朗子教授                |
| 教育政策特論          | 兼任教員                  |
| 教材・授業研究Ⅰ（表現）    | 檜永卓三教授                |
| 教材・授業研究Ⅱ（数理）    | 西村哲雄教授                |
| 教材・授業研究Ⅲ（言語）    | 兼任教員                  |
| 教育方法学特論         | 仲久徳教授                 |
| ICT・情報資源活用特論    | 仲久徳教授                 |
| 教育評価特論          | 兼任教員                  |
| カリキュラムデザイン特論    | 仲久徳教授                 |
| キャリア教育特論        | 大野精一教授                |
| 学校教育相談特論        | 大野精一教授・岩澤一美准教授・土岐玲奈講師 |
| プレゼンテーション特論     | 兼任教員                  |
| 教育と哲学特論         | 兼任教員                  |

## ○中学校・高校専修免許状

| 科目名             | 担当者                   |
|-----------------|-----------------------|
| 多文化共生教育特論       | 兼任教員                  |
| 発達臨床実践特論        | 岩澤一美准教授               |
| 教育のユニバーサルデザイン特論 | 阿部利彦教授                |
| 教育法規特論          | 兼任教員                  |
| 学級経営・学校経営特論     | 大隅心平教授                |
| 教育社会学特論         | 石原朗子教授                |
| 教育政策特論          | 兼任教員                  |
| 教育方法学特論         | 仲久徳教授                 |
| ICT・情報資源活用特論    | 仲久徳教授                 |
| 教育評価特論          | 兼任教員                  |
| カリキュラムデザイン特論    | 仲久徳教授                 |
| キャリア教育特論        | 大野精一教授                |
| 学校教育相談特論        | 大野精一教授・岩澤一美准教授・土岐玲奈講師 |
| プレゼンテーション特論     | 兼任教員                  |
| 教育と哲学特論         | 兼任教員                  |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                          |              |                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------|------------------------|
| 授業科目名：<br>情報処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教員の免許状取得のため<br>の必修科目     | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：斎藤 俊則<br>担当形態 単独 |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                          |              |                        |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目 |              |                        |
| 各科目に含めることが<br>必要な事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 情報機器の操作                  |              |                        |
| 「学位授与の方針」との関係<br>問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                          |              |                        |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>(1) オフィスアプリケーションを活用した文書や資料の作成ができる。<br>(2) クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。<br>(3) Scratch で自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。<br>(4) インターネットを中心とする情報環境にて合理的かつ安全に情報の検索と活用ができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                          |              |                        |
| 授業の概要<br>学校教育での幅広い職務に応用可能なデジタル情報環境下における情報機器の扱いを学習する。情報機器の具体的な操作方法是日々変わるため、この授業では新しい環境下での自習による操作習得に必要なスキルの獲得に力点を置く。また、デジタル情報の扱いを合理的かつ安全に行うための基礎知識を合わせて学習する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                          |              |                        |
| 授業計画<br>第 1 回：「教育の情報化」とその対応<br>第 2 回：I C T 活用基礎実習①－Word の活用（基礎）<br>第 3 回：I C T 活用基礎実習②－Word の活用（レポートの作成）<br>第 4 回：I C T 活用基礎実習③－Excel の活用（基礎）<br>第 5 回：I C T 活用基礎実習④－Excel の活用（グラフの作成と表計算機能の利用）<br>第 6 回：I C T 活用基礎実習⑤－PowerPoint の活用（基礎）<br>第 7 回：I C T 活用基礎実習⑥－PowerPoint の活用（プレゼンテーション資料の作成）<br>第 8 回：デジタル情報活用基礎実習①－情報の調べ方・まとめ方<br>第 9 回：デジタル情報活用基礎実習②－情報と法律<br>第 10 回：デジタル情報活用基礎実習③－情報とセキュリティ<br>第 11 回：クラウド環境演習①－クラウドの仕組みとアカウント作成<br>第 12 回：クラウド環境演習②－クラウドを利用した情報共有<br>第 13 回：プログラミング演習①－プログラミングの基礎<br>第 14 回：プログラミング演習②－作品制作<br>第 15 回：まとめ<br>定期試験 |                          |              |                        |

テキスト

奥村晴彦・森本尚之『改訂第4版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 2020年

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。

情報処理（担当：齋藤<sup>さいとう</sup> 俊則<sup>としのり</sup>）

E-mail: [t-saito@gred.seisa.ac.jp](mailto:t-saito@gred.seisa.ac.jp)

| 科目コード  | 単位数<br>( ) 内は<br>SC             | レポート<br>(RE) | スクーリング<br>(SC) | 科目修得<br>試験 | 学修の順番   |
|--------|---------------------------------|--------------|----------------|------------|---------|
| 531120 | 2 単位                            | 1 本          | なし             | レポート方式     | RE-R 試験 |
| 備考     | 【教員免許】 免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目 |              |                |            |         |
| 教科書    | 『改訂第 4 版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社   |              |                |            |         |
| クラスコード | e33grag                         |              |                |            |         |

■授業の到達目標及びテーマ

- (1) オフィスアプリケーションを活用した文書や資料の作成ができる。
- (2) クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。
- (3) Scratch で自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。
- (4) インターネットを中心とする情報環境にて合理的かつ安全に情報の検索と活用ができる。

■授業の概要

学校教育での幅広い職務に応用可能なデジタル情報環境下における情報機器の扱いを学習する。情報機器の具体的な操作方法是日々変わるため、この授業では新しい環境下での自習による操作習得に必要なスキルや知識の獲得に力点を置く。また、デジタル情報の扱いを合理的かつ安全に行うための基礎知識を合わせて学習する。

■学修の流れと進め方

<学修の流れ>

- ①「学習の具体的な進め方」の案内に従って課題 1～8 を完成させ、課題 9 の指示に従って提出する。
- ②課題 1～8 のレポート提出後に科目修得試験（レポート方式）を提出する。ただし、科目修得試験の評価はレポート合格後に行う。

<学修の進め方>

- ①テキストにおいて、以下の「■学修の具体的な進め方」に示された内容について学ぶとともに、レポート学修を進める。
- ②レポート（課題 1～8）を提出の後、科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

<注意事項>

以下に掲げる「■学修の具体的な進め方」の指示に従って、テキストを読みながらテーマの課題に取り組む。出版社によるテキストのサポートページ（URL は以下を参照）の情報を必ず確認すること。

<https://gihyo.jp/book/2020/978-4-297-11710-8/support>

また、この科目では課題提出のために Google ドライブおよび Scratch を利用する。そのための準備として、Google アカウントおよび Scratch のアカウントを必ず作成し、かつログインおよびログアウトの操作を自習すること（ただし Google アカウントに関しては、2021 年度より大学が学生に一律配布するメールアドレスが Google アカウントを兼ねるため、通常の場合、大学メールアドレスを使用することで新たな Google アカウント作成の必要は生じない）。Google、Scratch のアカウントの作成の仕方については、それぞれ Google 等の検索サイトでキーワード「Google アカウント作成」および「Scratch アカウント作成」を入力し検索すると上位項目に有用な情報がリストアップされる。なお提出については、下記リンク（レポート提出フォーム）より行うこと。

【レポート提出フォーム】

<https://forms.gle/fonte25rEyCU4gP49>

## ■レポート学修

### レポートのテーマ（字数指定なし）

「■学修の具体的な進め方」のテーマ①、②に示している「研究課題」＜課題 1～8＞に取り組む。レポート提出の方法の詳細は＜課題 9＞の解説を参照。

### レポートの評価基準

課題 1、課題 2、課題 3、課題 4、課題 5 については各 2 点、課題 6、課題 7、課題 8 については 5 点（合計 25 点満点）で採点する。なお、合計 20 点未満の場合、再提出とする。

※他者の著作物（書籍、雑誌、インターネット上の情報、他者が作成したレポートなど）をあたかも自分が書いたように見せかけることは、不正行為となる。

## ■学修の具体的な進め方

### テーマ①：オフィスアプリケーションの活用

シラバス：第 1 回～第 7 回 テキスト：第 5 章、第 6 章、第 7 章

### 到達目標（何を学ぶか）

- 1 ワードプロセッサの諸機能を用いて章立て構造を持つ文書を作成できる。
- 2 表計算ソフトを用いてデータからグラフを作成することができる。
- 3 表計算ソフトを用いて簡単な統計計算を行うことができる。
- 4 プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
- 5 オフィスアプリケーションで作成した文書を汎用フォーマット（PDF）に変換して保存できる。

### 学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

**研究課題****<課題 1> ワードプロソフトによる章立て構造を持つ文書の作成****<作成目標>**

- ・ テキスト p.61 図 5.2 を参考に、ワードプロソフト（Microsoft Word を想定）を用いて章立て構造を持つ文書を作成する。図 5.2 の例と同様に文章、タイトル、日付と著者名、見出し、箇条書き、引用文、参考文献を有する文書であれば内容は問わない。

**<作成手順>**

- ・ テキスト p.59～75（「5.1 文書作成ソフトのいろいろ」から「5.3 Word でレポート作成」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 5.2 と同様の文書を作成する。
- ・ 作成した文書のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する（提出は、クラウドドライブ上に作成した提出用フォルダ上にデータを保存し、共有機能を用いてそのフォルダの URL を講師が準備した提出先にアップロードする方法で行う。課題 2～7 の提出も同様の手順で行う）。

**<課題 2> 表計算ソフトによるグラフの作成****<作成目標>**

- ・ テキスト p.94 図 6.15 を参考に、表計算ソフト（Microsoft Excel を想定）を用いて表とグラフを作成し、それらをワードプロソフトで作成した文書に貼り付けて、文章、表、グラフが入った文書を作成する。図 6.15 の例と同様に表（5 行 4 列以上のデータがあるもの）およびグラフ（集合縦棒形式）を有する文書であれば内容は問わない。

**<作成手順>**

- ・ テキスト p.83～95（「6.1 表計算ソフトウェアとは」から「6.7 Word への貼り付け」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 6.15 と同様の文書を作成する。
- ・ 作成した文書のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

**<課題 3> 表計算ソフトによる簡単な統計計算の実行****<作成目標>**

- ・ テキスト p.105 図 6.33 を参考に、表計算ソフトを用いて複数の得点が並ぶ得点表について得点ごとの偏差値、得点全体の平均および標準偏差を算出する。図 6.33 の例と同様に 10 件以上の得点が並ぶ得点表であればデータの内容は問わない。

**<作成手順>**

- ・ テキスト p.95～105（「6.8 計算」から「6.9 もっと計算、並べ替え」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 6.33 と同様の文書を作成する。
- ・ 作成した表計算のデータは<課題 9>で指示する方法で提出する。

**<課題 4> プレゼンテーションソフトによるプレゼンテーション資料の作成****<作成目標>**

- ・ テキスト p.115 図 7.3、図 7.4 および p.114 図 7.5 を参考に、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint を想定）を用いて口頭発表等に用いるプレゼンテーシ

ョン資料を作成する。タイトルページ、箇条書きページ、および表計算ソフトで作成したグラフを読み込んだグラフ入りページを含む資料であれば内容は問わない。

＜作成手順＞

- ・ テキスト p.111～115（「7.1 プレゼンテーションとは」から「7.2 PowerPoint の使い方」の最後まで）の操作手順を読み、実際にテキストの指示に従って図 7.3～7.5 と同様の文書を作成する。
- ・ 作成した文書のデータは＜課題 9＞で指示する方法で提出する。

＜課題 5＞データの汎用フォーマットへの変換と保存

＜作成目標＞

- ・ ワードプロソフト（保存の操作方法は p.62～63）およびプレゼンテーションソフト（保存の操作方法は p.114）で作成した課題 1、課題 2、課題 4 のデータをそれぞれ PDF に変換して保存する。

＜作成手順＞

- ・ テキスト p.79～80 の解説を参考に、汎用フォーマットである PDF についての基礎知識を確認する。
- ・ ワードプロソフトで作成した課題 1、課題 2 のデータを PDF に変換して保存する。
- ・ プレゼンテーションソフトで作成した課題 4 のデータを PDF に変換して保存する。
- ・ 作成した 3 つのデータは＜課題 9＞で指示する方法で提出する。

**テーマ②：デジタル情報の合理的かつ安全な活用**

シラバス：第 8 回～第 10 回 テキスト：第 9 章、第 11 章、第 12 章

**到達目標（何を学ぶか）**

- 1 サーチエンジンの諸機能を目的に応じて使い分けることができる。
- 2 デジタル情報機器を使う上での安全上のリスクと対策について基本的な知識を持ち、学校現場での合理的な対応策を考案することができる。
- 3 情報の扱いに関わる法律について基本的な知識を持ち、学校現場での情報の扱いについて「してよいこと」と「してはいけないこと」、および「すべきこと」と「すべきでないこと」の区別をすることができる。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

以下の「研究課題」に取り組む。

**研究課題**

＜課題 6＞サーチエンジンの目的に応じた合理的な利用

＜作成目標＞

- ・ サーチエンジン（Google を想定）を用いてテキスト p.128 に掲載された 3 種類の検索（AND、OR、NOT 検索）および p.129 に掲載されたドメイン名による絞り込み検索を実施して、条件に応じた適切な検索の仕方について学んだ内容を説明する文章を作成する。

＜作成手順＞

- ・ テキスト p.128 の解説を読んだ上で、Google にて自分で選んだキーワードを用いて AND 検索、OR 検索、NOT 検索を実行する。



- それぞれのキーワードは半角のダブルクォーテーション（"）で囲むと「完全一致検索」となり、それぞれの検索結果の違いがよりわかりやすい。
- ・ 同じく Google にてテキスト p.129 に掲載されたドメイン名による絞り込み検索を実行する。
- ・ AND 検索、OR 検索、NOT 検索、およびドメイン名による絞り込み検索を使うことが有効であると考えられる事例を探して、理由とともにその説明を文章化する（これを「課題 6 解答」とする）。

#### ＜課題 7＞学校現場でデジタル情報機器を扱う上でのリスクと対策

##### ＜作成目標＞

- ・ テキスト第 11 章「情報とセキュリティ」全体（p.147～158）を参照して、教員、生徒・児童問わず学校でできるだけデジタル情報機器の活用を進める立場から、教員および生徒・児童が持つべきコンピュータの安全な利用に関わる知識を特定するとともに、教員、生徒・児童がその知識を身につけるための学習機会の設定の仕方について自らの考えを言語化する。

##### ＜作成手順＞

- ・ テキスト第 11 章「情報とセキュリティ」全体（p.147～158）を通読した上で、以下の資料を作成する。
  - 1 p.147～154（「11.1 脆弱性とその対策」および「11.5 Mac のセキュリティ対策」）に挙げられているセキュリティ対策の内容を踏まえて、「PC のセキュリティ対策」というタイトルの一覧表を作成する。ただしその表は、「PC に必ずしも詳しくない教員および生徒・児童が一覧して手短に PC のセキュリティ対策の要点がわかること」を目的に作られた資料であると想定する（これを「課題 7 解答①」とする）。
  - 2 ①で作成した表が教員および生徒・児童に有効に生かされるための学習機会として具体的にどのような機会を設けることが考えられるか。また、そのような機会を設ける上での課題は何か。外部資料なども適宜参照しつつ、これらについての各自の考えを文章化する（これを「課題 7 解答②」とする）。

#### ＜課題 8＞情報の扱いに関わる法律を踏まえた学校現場での情報活用

##### ＜作成目標＞

- ・ テキスト第 12 章「情報と法律」全体（p.159～166）を参照して、学校現場での情報の扱いに関して特に「知的財産権、著作者人格権および著作権の保護」および「個人情報の保護」の 2 点について教員組織全体が適正な理解を持つことができるように、研修での利用を想定したプレゼンテーション資料を作成する。

##### ＜作成手順＞

- ・ テキスト第 12 章「情報と法律」全体（p.159～166）を通読した上で、教員同士の研修を想定して、学校内での情報の取り扱いについての 1 つのプレゼンテーション資料を作成する（これを「課題 8 解答」とする）。そのプレゼンテーション資料には以下の内容を含めるものとする。
  - 「知的財産権、著作者人格権および著作権の保護の観点から〈してよいこと〉と〈してはいけないこと〉」について 3 ページ以上 5 ページ以内の説明
  - 「個人情報保護法の観点から留意すべきこと」について 1 ページ以上 3 ページ

以内の説明

### 「課題 6～8 解答」の提出方法

- ・ 「課題 6 解答」、「課題 7 解答①」、「課題 7 解答②」はワープロソフトで 1 つの文書にまとめて保存する。その際には、冒頭に「レポート課題 6～7 解答」という見出しと「氏名」および「学生番号」を記し、スタイル機能等を適宜用いて読みやすく整形する。
- ・ 上記の「レポート課題 6～7 解答」とプレゼンテーション資料「課題 8 解答」とは、<課題 9>で指示する方法で提出する。

### テーマ③：クラウド環境におけるデータ活用

シラバス：第 11 回～第 12 回 テキスト：該当なし

### 到達目標（何を学ぶか）

- ・ クラウド環境でデジタルデータの保存や共有ができる。

### 学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

### 研究課題

#### <課題 9>情報の扱いに関わる法律を踏まえた学校現場での情報活用

#### <作成目標>

- ・ Google が公開する「Google ドライブの使い方」(<https://support.google.com/drive/answer/2424384?co=GENIE.Platform%3DDesktop&hl=ja>)を参照して、Google ドライブの使用を開始し、自分がこの授業の学修過程で作成した文書をアップロードする。
- ・ 同じく Google が公開する「Google ドライブの使い方」を参照して、Google ドライブにアップロードしたファイルとフォルダを共有する方法を確認する。

#### <作成手順>

- ・ (Google アカウントがない場合) Google が公開する「Google アカウントの作成」(<https://support.google.com/accounts/answer/27441?hl=ja>)を見ながら自分の Google アカウントを作成する。\*ただし 2021 年度より大学が学生に一律配布するメールアドレスが Google アカウントを兼ねるため、通常の場合、大学メールアドレスを使用することで新たな Google アカウント作成の必要は生じない。
- ・ 「Google ドライブの使い方」を参照して、これまでの課題（課題 1～8）で作成した全てのファイルを Google ドライブにアップロードする。アップロードをする際には以下を参照して内容別のフォルダを作成し、それぞれのフォルダの中に所定のファイルを保存する。

| 課題番号 | ファイル総数 | ファイルの内容                  | フォルダ名   |
|------|--------|--------------------------|---------|
| 課題 1 | 1      | ワープロソフトによる章立て構造を持つ文書     | テーマ 1-1 |
| 課題 2 | 1      | 表計算ソフトによって作成したグラフを添付した文書 | テーマ 1-1 |

|           |   |                               |         |
|-----------|---|-------------------------------|---------|
| 課題 3      | 1 | 表計算ソフトで作成した得点表                | テーマ 1-1 |
| 課題 4      | 1 | プレゼンテーションソフトで作成したプレゼンテーション資料  | テーマ 1-1 |
| 課題 5      | 3 | 課題 1, 課題 2, 課題 4 の PDF 版      | テーマ 1-2 |
| 課題 6 及び 7 | 1 | 課題 6 解答 + 課題 7 解答① + 課題 7 解答② | テーマ 2   |
| 課題 8      | 1 | 課題 8 解答                       | テーマ 2   |

### 「課題 9」の提出方法

- 上述の「Google ドライブの使い方」の「ステップ 3: ファイルを共有、整理する / Google ドライブのフォルダを共有する」のページを開き、そのページにある「共有相手を選択する / フォルダへのリンクを知っている全員」の説明を参照して、上記の手順によって作成された 3 つのフォルダ（テーマ 1-1、テーマ 1-2、テーマ 2）のリンクを取得する。その際、「6. ユーザーの権限を選択します（閲覧のみ、または編集可）」については必ず「編集可」を選択する（採点者はレポートの講評をフォルダ「テーマ 1-1」に書き込む。その際、「編集可」でなければ書き込みの操作ができないため要注意）。「編集可」の設定の後、それぞれのフォルダの「共有可能なリンク」を取得する。



- 本学修指導書 2 ページ目記載の「レポート課題提出フォーム」の URL を開き、提出フォームの所定の場所に URL をコピーして 3 つのフォルダのリンクを提出する
  - 注意！これが課題 1～8 の提出方法となる。この手続きを行わないと課題 1～8 の提出が完了したとはみなされないため注意すること。**

情報処理B 2020年度前期 「課題9」 提出フォーム

「課題9」はここから提出してください。

\*必須

メールアドレス \*

メールアドレス

あなたの氏名を記入してください。

回答を入力

あなたの学生番号を記入してください。

回答を入力

#### テーマ④：プログラミングの基礎

シラバス：第 13 回～第 14 回 テキスト：該当なし

#### 到達目標（何を学ぶか）

- ・ Scratch（プログラミングソフト）を活用して自分が楽しむことのできる作品を作ることができる。
- ・ コンピュータ分野の専門家にはならない人たちがプログラミングを学習することの意義について自らの経験を踏まえつつ対話的に考察する準備ができる。

#### 学修の進め方（どう学ぶか）

以下の「研究課題」に取り組む。

#### 研究課題

##### <課題 10> プログラミングの市民教育・一般教育としての意義

##### <作成目標>

- ・ Scratch のウェブサイト（<https://scratch.mit.edu/>）でチュートリアルを参照して、プログラミングによって自分が楽しむことのできる作品を作成する。

##### <作成手順>

- ・ Scratch のウェブサイトにて自分のアカウントを作成する。ウェブサイトは検索サイトで「Scratch」と入力して最上位に表示される（またはウェブサイトの URL である「<https://scratch.mit.edu/>」をブラウザに直接入力する）。このウェブサイトの画面右上に「Scratch に参加しよう」というテキストリンクがあるので、それをクリックすることでアカウント作成が開始される。



- ・ アカウントを作成後、サインインをして画面上部の「作る」というテキストリンクからプログラム制作画面に移動する。プログラム制作画面上部に「チュートリアル」というテキストリンクがあるのでクリックし、表示された各項目のチュートリアル（目的別のプログラムの作り方を案内する動画）を視聴する。



- ・ 自分で選んだテーマに従ってプログラミングを行い作品の試作を行う。慣れるまではチュートリアルに準じて同じようなプログラムを作り、徐々に自分が作りたいもののイメージを膨らませる。楽しそうと思えるテーマを決めて、最終的に一つの作品に仕上げる。
  - テーマ案としては、誰かに見せたいアニメーションやプレゼンテーション、単純な構造を持つゲーム、自分や身近な人に便利な機能を提供する計算機（カロリー計算、価格計算など）、一問一答式のクイズ形式による単語帳など学習補助アプリ、その他身近な用途を考えるとよい。
  - Scratch のサイトにある他の人が作った作品を参考にしてもよい（「リミックス」機能を使うなど）
  - Scratch についてはインターネット上に様々な情報があるので各自検索して作品作りの参考にするとよい。

#### 「課題 10」の提出方法

- ・ <課題 10>についてのレポート課題は課さない。この課題の成果は科目修得試験の中で評価する。

#### テーマ⑤：科目修得試験

##### 【課題】

以下 3 点に関する課題を出題する。

- ・ 「テーマ④:プログラミングの基礎」の成果と振り返り（Scratch 作品、文章記述）

- ・ 情報活用能力の育成に関する教員の知識・資質に関する問い（文章記述）
- ・ 教育の情報化にまつわる教員の課題に関する問い（文章記述）

※科目修得試験はレポート合格後に提出すること。

※課題の提出方法は本学修指導書と同一フォルダに記載の「531120 情報処理 B 科目修得試験提出要領」を参照すること。

#### 参考文献

文部科学省「小学校プログラミング教育の手引（第一版）」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1403162.htm)

#### 併せてとりたい科目

教育方法・技術論（初等）

教育方法・技術論（中等）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                     |              |                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------|
| 授業科目名：<br>教育方法・技術論<br>（初等）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 教員の免許状取得のため<br>の必修科目                | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：齋藤俊則<br><small>さいとうとしのり<br/>なかひさのり</small><br>仲久徳 |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                     |              | 担当形態：オムニバス                                              |
| 実務内容<br>（実務家教員の場合）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |              |                                                         |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |              |                                                         |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）          |              |                                                         |
| 「学位授与の方針」との関係<br>共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                     |              |                                                         |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>・教育方法の歴史、学びや授業、学習評価などの基礎的事項について説明できる。<br>・教材研究の方法や授業の構成について理解し、具体的なテーマに沿った指導案を作成できる。<br>・情報機器等の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法を提案できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |              |                                                         |
| 授業の概要<br>本授業では、教育方法、教材研究、授業の構想と展開、運営に関する基本的考え方について理解し、情報機器や教材の活用などを具体的な場面で構想できることをねらいとする。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                     |              |                                                         |
| 授業計画<br>第1回：「教育方法・技術論」学習の目的：これからの社会を担う子供たちに求められている資質・能力とその育成の在り方（担当：齋藤）<br>第2回：教育方法の基本原理及び歴史（担当：齋藤）<br>第3回：学びとは何か：「学び」に関する基礎的理論、多様な「学び」の在り方（担当：齋藤）<br>第4回：授業とは何か：授業を構成する基礎的要件、教師・子ども・教材の関係性（担当：齋藤）<br>第5回：学習評価とは何か：評価の意義、様々な学習評価の方法（担当：齋藤）<br>第6回：授業づくりの方法（1）：学習目標・評価規準設定の意義と方法／学習目標・評価規準設定演習（担当：仲）<br>第7回：授業づくりの方法（2）：教材研究の意義と方法／教材研究演習（担当：仲）<br>第8回：授業づくりの方法（3）：学習の形態、授業の構成と展開／授業構成演習（担当：仲）<br>第9回：授業運営の技術（1）：授業コミュニケーション（話法及び発問・板書を中心に）（担当：仲）<br>第10回：授業運営の技術（2）：授業マネジメント（一斉指導及び机間指導を中心に）（担当：仲）<br>第11回：情報機器の活用：教育の情報化の現状と情報機器活用のための基礎的事項（担当：齋藤） |                                     |              |                                                         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第12回：授業実践の基礎演習（1）：学習指導案の作成、電子教材・印刷教材の作成（担当：仲）</p> <p>第13回：授業実践の基礎演習（2）：模擬授業、授業評価（担当：仲）</p> <p>第14回：教育情報の活用と情報教育：著作権、個人情報及び情報セキュリティに関する基礎的事項、情報活用能力・情報モラル育成の方法（担当：斎藤）</p> <p>第15回：教師の力量形成：授業研究の意義と方法、学び続ける・学び合う教師（担当：斎藤）</p> <p>定期試験</p> <p>＊スクーリングでは、第11回・第14回（オンデマンド）、第12回・第13回（対面）を実施する。</p>                                                                                                                                         |
| <p>テキスト</p> <p>（1）佐藤学『教育の方法（放送大学叢書）』左右社 2010 年</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>補助テキスト（自作資料）</p> <p>（1）文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社</p> <p>（2）文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社</p> <p>（3）文部科学省『教育の情報化に関する手引』</p> <p><a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm</a></p> <p>（4）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年</p> <p>（5）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年</p> <p>（6）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年</p> |
| <p>学生に対する評価：</p> <p>レポート（25％）、スクーリング（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |



教育方法・技術論（初等）（担当：<sup>さいとう</sup>斎藤 <sup>としのり</sup>俊則・<sup>なか</sup>仲 <sup>ひさのり</sup>久徳）

E-mail: [t-saito@gred.seisa.ac.jp](mailto:t-saito@gred.seisa.ac.jp)（斎藤）

[h\\_naka@seisa.ac.jp](mailto:h_naka@seisa.ac.jp)（仲）

| 科目コード      | 単位数<br>( ) 内は SC                                                                                                                                                                                                                                                 | レポート<br>(RE) | スクーリング<br>(SC) | 科目修得<br>試験 | 学修の順番 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------|------------|-------|
| 546173     | 2 (0.5) 単位                                                                                                                                                                                                                                                       | 1 本          | 1 日            | レポート方式     | RE→SC |
| 備考         | <p>【教員免許】 幼稚園・小学校「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」</p> <p>【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u></p> <p>【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、Web ライブスクーリングを受講すること。</p> |              |                |            |       |
| スクーリングの持ち物 | 教科書、筆記用具、ノート                                                                                                                                                                                                                                                     |              |                |            |       |
| 教科書        | 佐藤学『教育の方法（放送大学叢書）』左右社 2010 年                                                                                                                                                                                                                                     |              |                |            |       |
| キーワード      | 教育方法，学び，学習評価，授業運営，教育の情報化                                                                                                                                                                                                                                         |              |                |            |       |
| クラスコード     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |              |                |            |       |

### ■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 教育方法の歴史、学びや授業、学習評価などの基礎的事項について説明できる。
- (2) 教材研究の方法や授業・保育の構成について理解し、具体的なテーマに沿った指導案を作成できる。
- (3) 情報機器等の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法を提案できる。

### ■授業の概要

本授業では、教育方法、教材研究、授業・保育の構想と展開、運営に関する基本的な考え方について理解し、情報機器や教材の活用などを具体的な場面で構想できることをねらいとする。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。

### ■学修の流れと進め方

#### <学修の流れ>

- ① **レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。**
- ② レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験（レポート方式）を提出する。

### ＜学修の進め方＞

- ①教科書を読んで学んだことのうち、実際に授業・保育をデザイン、実施する際に重要だと考えられる点について、実際の授業事例を考えながらレポートにまとめる。
- ②スクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

### ■レポート学修

#### レポートのテーマ（2,000 字～3,000 字程度）

テーマ：授業づくりのポイントとその事例

教科書『教育の方法（放送大学叢書）』を読んで学んだことのうち、実際に授業・保育をデザイン、実施する際に重要だと考えるポイントを 3 つ指摘し、各ポイントの概要と重要だと考えたのかについて説明するとともに、各ポイントを活かした授業・保育事例を紹介する。（具体的には以下の「レポートの評価基準」に従うこと！）

#### レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論①・②」、「結論」の構成になっていること
- （３）「序論」では、授業についての自らの考え方について述べていること
- （４）「本論①」では、授業・保育をデザインする、実施する際に重要だと考える 3 つのポイントの概要について、教科書の 3 つ以上の章から教科書の記述を引用（その際、引用したページを明記）して説明していること（注意：第九章のみを引用・参照しただけでは「再提出」とする）
- （５）「本論②」では、各自で得意な小学校の教科・テーマ（幼稚園教諭のみ取得希望者は、幼稚園の領域・テーマ）を選び、各自が考えた具体的な授業事例（題材、目標、展開、教材、学習活動、指導上の留意点等）（幼稚園教諭のみ取得希望者は、具体的な保育事例（保育内容、目標、環境、園児の活動、保育者の支援等））を紹介する。その際、「本論①」で取り上げた 3 つのポイントを関連付けながら説明していることが条件である。（注意：ポイントごとに授業事例を取り上げるのではなく、1 つの授業事例において 3 つのポイントをとり込むこと）
- （６）「結論」では、レポート作成を通しての省察（振り返り）を述べていること
- （７）引用文献、参考文献等を文末に明記していること（教科書も一つの文献として取り上げること）

レポート評価は、（１）～（７）を満たしているかについて採点し、内容の充実度、表現の工夫の程度に応じて評定する。なお、再提出（D）の場合、レポートの内容に応じて追加課題を課すことがある。必ず、追加課題にも取り組んでから再提出すること。

### ■スクーリング学修

**スクーリングの事前学修：**

指定された教科書をよく読み、「■学修の具体的な進め方」のテーマ①、②の学習およびレポート作成に取り組む。

**スクーリングでの学修内容：**

スクーリング（対面）では、道徳の読み物教材を配布して実際に授業づくりを行う。まず、個人ワークにおいて、教材解釈、発問と板書計画を考える。次に、グループによる相互評価を通して、授業マネジメントや授業コミュニケーションの在り方、授業研究と授業改善の取り組み方について検討する。

**スクーリングの事後学修：**

「■学修の具体的な進め方」のテーマ④、⑤に取り組むとともに、科目修得試験（レポート方式）において、学習指導案・教材等を作成する。

**■学修の具体的な進め方****テーマ①：教授活動を支える基礎理論**

シラバス：第 1 回～第 5 回 教科書：第一章～第八章

**到達目標（何を学ぶか）**

- （1）「教える」という行為の 2 つの意味について具体例を挙げて説明できる。
- （2）教育方法学において歴史上著名な人物とその業績について説明でき、現代の学校教育、授業との関わりについて説明できる。
- （3）「行動主義」「認知主義」の学びについて説明できる。併せて、「活動主義」の学び、特に「発達の最近接領域」（ヴィゴツキー）「正統的周辺参加」（レイブ&ウェンガー）、「拡張された学び」（エンゲストローム）について説明できる。
- （4）学びについての基礎理論が授業にどう適応できるか説明できる。
- （5）学習評価についてその意義、方法について説明できる。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

**研究課題**

- （1）「教える」という行為の 2 つの意味に沿って学校での授業事例を検討してみよう。
- （2）教育方法学において歴史上著名な人物とその業績について整理し、現代の学校教育、授業にどう関わるのかまとめてみよう。
- （3）「行動主義」「認知主義」の学びについてその特徴を整理し、授業への適応方法についてまとめてみよう。
- （4）「活動主義」の学びについて整理し、授業への適応方法についてまとめてみよう。（できれば、ヴィゴツキー（柴田義松訳）『思考と言語（新訳版）』新読書社、2001、レイブ&ウェンガー（佐伯胖訳）『状況に埋め込められた学習－正統的周辺参加－』産業図書、1993、エンゲストローム（山住勝広〔ほか〕訳）『拡張による学習』新曜社、1999 といった原著を読むことをお勧めする。）

**テーマ②：授業づくりの方法、授業運営の技術**

シラバス：第 6 回～第 8 回、第 9 回～第 10 回 教科書：第九章～第十五章、別途資料

**到達目標（何を学ぶか）**

- （１）「授業デザイン」や「授業運営」のポイントについて説明できる。
- （２）「授業評価」や「授業分析」の手法について説明できる。
- （３）現代の授業研究の動向について説明できる。
- （４）教職の専門性について、教科書等を通して学んだことを含めて自らの考えを説明できる。
- （５）「学びの共同体」の意義について、今後の授業の在り方と関連付けて自らの考えを説明できる。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

**研究課題**

- （１）「授業デザイン」や「授業運営」のポイントについて実際に授業をデザイン・運営することを通して自らの視点でまとめてみよう。
- （２）「授業評価」や「授業分析」の手法についてその可能性と限界についてまとめてみよう。
- （３）現代の授業研究の動向について「ディスコース分析」「文化」（あるいは「多文化」）「教科学習・総合学習」「カリキュラム」「トラッキング」などの視点からまとめてみよう。
- （４）教職の専門性とは何か、「個人の資質能力」「教師文化」「同僚性」の点から整理し、自らの考えをまとめてみよう。
- （５）「学びの共同体」の意義について整理し、今後の授業の在り方と関連付けて自らの考えをまとめてみよう。

**テーマ③：授業実践の基礎演習**

シラバス：第 12 回～第 13 回 教科書：該当なし（別途資料）

**到達目標（何を学ぶか）**

スクーリング時に配付された教材を基に、授業デザイン（発問・板書計画を含む）、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

スクーリング時に指示する。

**研究課題**

スクーリング時に指示する。

**テーマ④：「教育の情報化」への対応**

シラバス：第 11 回・第 14 回 教科書：該当なし（別途資料）

**到達目標（何を学ぶか）**

「教育の情報化」について全体像を把握したうえで、情報教育、教育情報の活用、教科等指導における情報機器の活用について学ぶ。

|                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>オンデマンド教材で指示する。                                                                             |
| <b>研究課題</b><br>オンデマンド教材で指示する。                                                                                      |
| <b>テーマ⑤：教師の力量形成</b><br>シラバス：第 15 回 教科書：該当なし                                                                        |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>スクーリングでの実践や省察を生かして、授業についての研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案・教材等を作成するとともに、自身の教師としての力量形成の在り方について説明できる。 |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>スクーリングで指示する。                                                                               |
| <b>研究課題</b><br>スクーリングで指示する。                                                                                        |

## 参考文献

### 補助テキスト（自作資料）

- (1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』東洋館出版社
- (2) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』東洋館出版社
- (3) 文部科学省『教育の情報化に関する手引』  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)
- (4) 田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年
- (5) 秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- (6) 西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年

## 併せてとりたい科目

情報処理

授業実践演習（初等）

各教科・各領域の指導法に関する科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                     |             |                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------|-----------------------------------|
| 授業科目名：<br>教育方法・技術論<br>(中等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教員の免許状取得のため<br>の<br>必修科目            | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：<br>仲 久徳・坂 敬介<br>担当形態：オムニバス |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                     |             |                                   |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 |             |                                   |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）          |             |                                   |
| 「学位授与の方針」との関係<br>・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。<br>・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。<br>・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                     |             |                                   |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>・教育方法の歴史、学びや授業、学習評価などの基礎的事項について説明できる。<br>・教材研究の方法や授業の構成について理解し、具体的なテーマに沿った指導案を作成できる。<br>・情報機器等の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法を提案できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                     |             |                                   |
| 授業の概要<br>本授業では、教育方法、教材研究、授業の構想と展開、運営に関する基本的な考え方について理解し、情報機器や教材の活用などを具体的な場面で構想できることをねらいとする。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                     |             |                                   |
| 授業計画<br>第1回：「教育方法・技術論」学習の目的：これからの社会を担う子供たちに求められている資質・能力とその育成の在り方（担当：仲 久徳）<br>第2回：教育方法の基本原理及び歴史（担当：仲 久徳）<br>第3回：学びとは何か：「学び」に関する基礎的理論、多様な「学び」の在り方（担当：坂 敬介）<br>第4回：授業とは何か：授業を構成する基礎的要件、教師・子ども・教材の関係性（担当：坂 敬介）<br>第5回：学習評価とは何か：評価の意義、様々な学習評価の方法（担当：坂 敬介）<br>第6回：授業づくりの方法（1）：学習目標・評価規準設定の意義と方法／学習目標・評価規準設定演習（担当：坂 敬介）<br>第7回：授業づくりの方法（2）：教材研究の意義と方法／教材研究演習（担当：坂 敬介）<br>第8回：授業づくりの方法（3）：学習の形態、授業の構成と展開／授業構成演習（担当：坂 敬介）<br>第9回：授業運営の技術（1）：授業コミュニケーション（話法及び発問・板書を中心に）（担当：仲 久徳） |                                     |             |                                   |

- 第10回：授業運営の技術（2）：授業マネジメント（一斉指導及び机間指導を中心に）  
（担当：仲 久徳）
- 第11回：情報機器の活用：各種教育メディア、電子黒板・タブレット端末等を活用した学習  
（担当：坂 敬介）
- 第12回：授業実践の基礎演習（1）：学習指導案の作成、電子教材・印刷教材の作成  
（担当：仲 久徳）
- 第13回：授業実践の基礎演習（2）：模擬授業、授業評価（担当：仲 久徳）
- 第14回：教育情報の活用と情報教育：著作権、個人情報及び情報セキュリティに関する基礎的事項、情報活用能力・情報モラル育成の方法（担当：仲 久徳）
- 第15回：教師の力量形成：授業研究の意義と方法、学び続ける・学び合う教師（担当：仲 久徳）

定期試験

＊スクーリングでは、第9回、第10回、第12回、第13回を実施する。

テキスト

- （1）佐藤学（2010）『教育の方法』左右社

参考書・参考資料等

- （1）文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
- （2）文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』
- （3）文部科学省『高等学校学習指導要領』
- （4）文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』
- （5）文部科学省『教育の情報化に関する手引』
- （6）田中耕治 他（2012）『新しい時代の教育方法』有斐閣
- （7）西岡加名恵 他編（2015）『新しい教育評価入門』有斐閣
- （8）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012年

学生に対する評価：

レポート（25%）、スクーリング（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。

教育方法・技術論（中等）（担当：仲 <sup>なか</sup> 久徳 <sup>ひさのり</sup>・坂 <sup>さか</sup> 敬介 <sup>けいすけ</sup>）

E-mail: h\_naka@seisa.ac.jp

| 科目コード      | 単位数<br>( ) 内は<br>SC                                                                                                                                                                                                                                                                                   | レポート<br>(RE) | スクーリング<br>(SC) | 科目修得<br>試験 | 学修の順番<br>(下記から選んでください) |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------|------------|------------------------|
| 542111     | 2(0.5)単位                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 1 本          | 1 日            | レポート方式     | RE→SC                  |
| 備考         | <p>【教員免許】 中学校（社会）（保健体育）（英語）・高等学校（公民）（保健体育）（英語）（地理歴史）「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」</p> <p>【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の 1 週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u></p> <p>【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、Web ライブスクーリングを受講すること。</p> |              |                |            |                        |
| スクーリングの持ち物 | 教科書、筆記用具、ノート                                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |                |            |                        |
| 教科書        | 『教育の方法（放送大学叢書）』左右社                                                                                                                                                                                                                                                                                    |              |                |            |                        |
| キーワード      | 授業づくり、情報機器等の活用、情報活用能力                                                                                                                                                                                                                                                                                 |              |                |            |                        |
| クラスコード     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |              |                |            |                        |

### ■授業の到達目標及びテーマ

- （１）教育方法の歴史、学びや授業、学習評価などの基礎的事項について説明できる。
- （２）教材研究の方法や授業の構成について理解し、具体的なテーマに沿った指導案を作成できる。
- （３）情報機器等の活用について、教材研究・授業における具体的な活用方法を提案できる。

### ■授業の概要

本授業では、教育方法、教材研究、授業の構想と展開、運営に関する基本的考え方について理解し、情報機器や教材の活用などを具体的な場面で構想できることをねらいとする。また、教師に求められる「学びを読み取る力」、「授業を見る力」について理解を深めていく。

### ■学修の流れと進め方

<学修の流れ>



- ①レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験を提出する。

#### <学修の進め方>

- ①教科書を読んで学んだことのうち、実際に授業をデザイン、実施する際に重要だと考えられる点について、実際の授業事例を考えながらレポートにまとめる。
- ②スクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

### ■レポート学修

#### レポートのテーマ（2,000 字～3,000 字程度）

教科書『教育の方法（放送大学叢書）』を読んで学んだことのうち、実際に授業をデザイン、実施する際に重要だと考えるポイントを 5 つ指摘し、①各ポイントの概要、②それらがなぜ重要だと考えたのかについて自らの考えた授業事例と関連付けて説明しなさい。

#### レポートの評価基準

- （１）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （２）レポート構成は「序論」、「本論①・②」、「結論」の構成になっていること。
- （３）「序論」では、授業についての自らの考え方について述べていること。
- （４）「本論①」では、授業をデザインする、実施する際に重要だと考える 5 つのポイントの概要について、教科書の 3 つ以上の章から教科書の記述を引用（その際、引用したページを明記）して説明していること（注意：第九章のみを引用・参照しただけでは「再提出」とする）。
- （５）「本論②」では、専攻する教科・テーマから中学校もしくは高等学校の具体的な授業事例（題材、目標、展開、教材、学習活動、指導上の留意点等）を紹介する。その際、「本論①」で取り上げた 5 つのポイントに関連付けながら説明していることが条件である（注意：ポイントごとに授業事例を取り上げるのではなく、1 つの授業事例において 5 つのポイントを取り込むこと）。
- （６）「結論」では、レポート作成を通しての省察（振り返り）を述べていること。
- （７）引用文献、参考文献等を文末に明記していること（教科書も一つの文献として取り上げること）。

レポート評価は、（１）～（７）を満たしているかについて採点し、内容の充実度、表現の工夫の程度に応じて評定する。なお、再提出（D 評価）の場合、レポートの内容に応じて追加課題を課すことがある。必ず、追加課題にも取り組んでから再提出するこ

と。

## ■スクーリング学修

### スクーリングの事前学修：

指定された教科書をよく読み、「■学修の具体的な進め方」のテーマ① ②の学習およびレポート作成に取り組む。

### スクーリングでの学修内容：

まず、「授業運営の技術」について概要を解説する。続いて、道徳の読み物教材を配布して実際に授業づくりを行う。まず、個人ワークにおいて、教材解釈、発問と板書計画を考えさせる。次に、相互評価を通して、授業マネジメントや授業コミュニケーションの在り方、授業研究と授業改善の取り組み方について検討し、最後に自己評価シートを用いて自らの指導案や授業への姿勢について自己評価する。

### スクーリングの事後学修：

「■学修の具体的な進め方」のテーマ④ ⑤に取り組むとともに、科目修得試験（レポート方式）において、学習指導案・教材等を作成する。

## ■学修の具体的な進め方

### テーマ①：教授活動を支える基礎理論

シラバス：第 1 回～第 5 回 教科書：第一章～第八章

#### 到達目標（何を学ぶか）

- （１）「教える」という行為の 2 つの意味について具体例を挙げて説明できる。
- （２）教育方法学において歴史上著名な人物とその業績について説明でき、現代の学校教育、授業との関わりについて説明できる。
- （３）「行動主義」「認知主義」の学びについて説明できる。併せて、「活動主義」の学び、特に「発達の最近接領域」（ヴィゴツキー）「正統的周辺参加」（レイブ＆ウェンガー）、「拡張された学び」（エンゲストローム）について説明できる。
- （４）学びについての基礎理論が授業にどう適応できるか説明できる。
- （５）学習評価についてその意義、方法について説明できる。

#### 学修の進め方（どう学ぶか）

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

#### 研究課題

- （１）「教える」という行為の 2 つの意味に沿って学校での授業事例を検討してみよう。
- （２）教育方法学において歴史上著名な人物とその業績について整理し、現代の学校教

育、授業にどう関わるのかまとめてみよう。

（３）「行動主義」「認知主義」の学びについてその特徴を整理し、授業への適応方法についてまとめてみよう。

（４）「活動主義」の学びについて整理し、授業への適応方法についてまとめてみよう。

（できれば、ヴィゴツキー（柴田義松訳）『思考と言語（新訳版）』新読書社,2001、レイブ&ウェンガー（佐伯胖訳）『状況に埋め込められた学習－正統的周辺参加－』産業図書,1993、エンゲストローム（山住勝広〔ほか〕訳）『拡張による学習』新曜社,1999 といった原著を読むことをお勧めする。）

## **テーマ②：授業づくりの方法**

シラバス：第 6 回～第 8 回 教科書：第九章～第十五章

### **到達目標（何を学ぶか）**

- （１）「授業デザイン」のポイントについて説明できる。
- （２）「授業評価」や「授業分析」の手法について説明できる。
- （３）現代の授業研究の動向について説明できる。
- （４）教職の専門性について、教科書等を通して学んだことを含めて自らの考えを説明できる。
- （５）「学びの共同体」の意義について、今後の授業の在り方と関連付けて自らの考えを説明できる。

### **学修の進め方（どう学ぶか）**

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

### **研究課題**

- （１）「授業デザイン」のポイントについて実際に授業をデザインすることを通して自らの視点でまとめてみよう。
- （２）「授業評価」や「授業分析」の手法についてその可能性と限界についてまとめてみよう。
- （３）現代の授業研究の動向について「ディスコース分析」「文化」（あるいは「多文化」「教科学習・総合学習」「カリキュラム」「トラッキング」などの視点からまとめてみよう。
- （４）教職の専門性とは何か、「個人の資質能力」「教師文化」「同僚性」の点から整理し、自らの考えをまとめてみよう。
- （５）「学びの共同体」の意義について整理し、今後の授業の在り方と関連付けて自らの考えをまとめてみよう。

## **テーマ③：授業運営の技術、授業実践の基礎演習（スクーリング）**

|                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| シラバス：第 9 回～第 10 回、第 12 回～第 13 回 教科書：該当なし                                                                                       |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>(1) 授業運営の技術の基本について学ぶ。<br>(2) スクーリング時に配付された教材を基に、授業デザイン（発問・板書計画を含む）、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。 |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>スクーリング時に指示する。                                                                                          |
| <b>研究課題</b><br>スクーリング時に指示する。                                                                                                   |
| <b>テーマ④：「教育の情報化」への対応</b><br>シラバス：第 11 回・第 14 回 教科書：該当なし（別途資料を活用）                                                               |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>「教育の情報化」について全体像を把握したうえで、情報教育、教育情報の活用、教科等指導における情報機器の活用について学ぶ。                                             |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>スクーリングで指示する。                                                                                           |
| <b>研究課題</b><br>スクーリングで指示する。                                                                                                    |

## 参考文献

- (1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』
- (2) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』
- (3) 文部科学省『高等学校学習指導要領』
- (4) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』
- (5) 文部科学省『教育の情報化に関する手引』
- (6) 田中耕治 他（2012）『新しい時代の教育方法』有斐閣
- (7) 西岡加名恵 他編（2015）『新しい教育評価入門』有斐閣
- (8) 秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年

## 併せてとりたい科目

授業実践演習（中等）

各教科の指導法に関する科目

## 星槎大学 教職課程履修規程

## (趣旨)

第1条 この規程は、星槎大学学則（以下「学則」という。）第38条5に基づき、星槎大学（以下「本学」という。）における教職課程（以下「本課程」という。）の履修に関し必要な事項を定める。

## (定義)

第2条 本課程を履修し教育職員免許状を取得しようとする者は、「教育職員免許法」および、「教育職員免許法施行規則」に定めるところに従い、本学所定の単位を取得しなければならない。

## (教員免許状の種類)

第3条 本学共生科学部共生科学科各専攻において取得できる教育職員免許状（以下「免許状」という）は以下のとおりである。

| 専攻               | 免許状                                                                                       |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 共生科学専攻           | 中学校教諭一種免許状（社会）<br>高等学校教諭一種免許状（地理歴史）<br>高等学校教諭一種免許状（公民）<br>特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者） |
| 初等教育専攻           | 幼稚園教諭一種免許状<br>小学校教諭一種免許状                                                                  |
| スポーツ身体表現専攻       | 中学校教諭一種免許状（保健体育）<br>高等学校教諭一種免許状（保健体育）                                                     |
| グローバルコミュニケーション専攻 | 中学校教諭一種免許状（英語）<br>高等学校教諭一種免許状（英語）                                                         |

## (要件)

第4条 前条の免許状を取得しようとする者は、以下の条件を充たさなければならない。

1. 学則第46条に定める卒業に必要な要件を充たしていること。

2. 幼稚園教諭一種免許状の取得に関する必要単位について

(1) 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名                | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|--------------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | 1科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション<br>(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション<br>(2) | 2   |
| 必修 | スポーツ(2) | 1   | 必修          | 情報処理               | 2   |

(2) 以下の領域及び保育内容の指導法に関する科目より、必修単位を含め24単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名        | 単位数 | 区分 | 科目名            | 単位数 |
|----|------------|-----|----|----------------|-----|
| 必修 | 保育内容（健康）   | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（健康）   | 2   |
| 必修 | 保育内容（人間関係） | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（人間関係） | 2   |
| 必修 | 保育内容（環境）   | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（環境）   | 2   |
| 必修 | 保育内容（言葉）   | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（言葉）   | 2   |
| 必修 | 保育内容（音楽表現） | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（音楽表現） | 2   |
| 必修 | 保育内容（造形表現） | 2   | 必修 | 保育内容の指導法（造形表現） | 2   |
|    |            |     | 選択 | 保育内容の指導法（総合演習） | 2   |

(3) 以下の教育の基礎的理解に関する科目等より、必修単位を含め25単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名                     | 単位数 | 区分 | 科目名          | 単位数 |
|----|-------------------------|-----|----|--------------|-----|
| 必修 | 教育原理（初等）                | 2   | 必修 | 教育方法・技術論（初等） | 2   |
| 必修 | 教職概論（初等）                | 2   | 必修 | 幼児理解の理論と方法   | 2   |
| 必修 | 教育経営・学校安全論（初等）          | 2   | 必修 | 教育相談（初等）     | 2   |
| 必修 | 教育心理学（初等）               | 2   | 必修 | 教育実習（初等）（Ⅰ）  | 5   |
| 必修 | 特別の支援を必要とする<br>幼児・児童の理解 | 2   | 選択 | 教育実習（初等）（Ⅱ）  | 3   |
| 必修 | 教育課程論（初等）               | 2   | 必修 | 教職実践演習（初等）   | 2   |

(4) 先に示した領域及び保育内容の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等及び以下の大学が独自に設定する科目も含め51単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名                   | 単位数 | 区分 | 科目名           | 単位数 |
|----|-----------------------|-----|----|---------------|-----|
| 選択 | 生涯学習論                 | 2   | 選択 | 授業実践演習(初等)    | 2   |
| 選択 | 発達障害概論                | 2   | 選択 | アクティブラーニング演習  | 2   |
| 選択 | 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 2   | 選択 | 多様な幼児・児童の支援演習 | 2   |
| 選択 | 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 2   | 選択 | 学校ボランティア(初等)Ⅰ | 1   |
| 選択 | ワーク・ライフ・バランス論         | 2   | 選択 | 学校ボランティア(初等)Ⅱ | 1   |

### 3. 小学校教諭一種免許状の取得に関する必要単位について

(1) 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション(2) | 2   |
| 必修 | スポーツ(2) | 1   | 必修          | 情報処理           | 2   |

(2) 以下の教科及び教科の指導法に関する科目より、必修単位を含め40単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名      | 単位数 | 区分 | 科目名           | 単位数 |
|----|----------|-----|----|---------------|-----|
| 必修 | 教科(国語)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(国語)   | 2   |
| 必修 | 教科(社会)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(社会)   | 2   |
| 必修 | 教科(算数)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(算数)   | 2   |
| 必修 | 教科(理科)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(理科)   | 2   |
| 必修 | 教科(生活)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(生活)   | 2   |
| 必修 | 教科(音楽)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(音楽)   | 2   |
| 必修 | 教科(図画工作) | 2   | 必修 | 初等教科教育法(図画工作) | 2   |
| 必修 | 教科(家庭)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(家庭)   | 2   |
| 必修 | 教科(体育)   | 2   | 必修 | 初等教科教育法(体育)   | 2   |
| 必修 | 教科(外国語)  | 2   | 必修 | 初等教科教育法(外国語)  | 2   |

(3) 以下の教育の基礎的理解に関する科目等より、必修単位を含め29単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名                 | 単位数 | 区分 | 科目名          | 単位数 |
|----|---------------------|-----|----|--------------|-----|
| 必修 | 教育原理(初等)            | 2   | 必修 | 特別活動の指導法(初等) | 1   |
| 必修 | 教職概論(初等)            | 2   | 必修 | 教育方法・技術論(初等) | 2   |
| 必修 | 教育経営・学校安全論(初等)      | 2   | 必修 | 生徒・進路指導論(初等) | 2   |
| 必修 | 教育心理学(初等)           | 2   | 必修 | 教育相談(初等)     | 2   |
| 必修 | 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解 | 2   | 必修 | 教育実習(初等)(1)  | 5   |
| 必修 | 教育課程論(初等)           | 2   | 選択 | 教育実習(初等)(2)  | 3   |
| 必修 | 道徳の理論・指導法(初等)       | 2   | 必修 | 教職実践演習(初等)   | 2   |
| 必修 | 総合的な学習の時間の指導法(初等)   | 1   |    |              |     |

(4) 先に示した教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等及び以下の大学が独自に設定する科目も含め59単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名    | 単位数 | 区分 | 科目名         | 単位数 |
|----|--------|-----|----|-------------|-----|
| 選択 | 生涯学習論  | 2   | 選択 | 授業実践演習(初等)  | 2   |
| 選択 | 発達障害概論 | 2   | 選択 | アクティブラーニング演 | 2   |

|    |                       |   |    |               |   |
|----|-----------------------|---|----|---------------|---|
|    |                       |   |    | 習             |   |
| 選択 | 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 2 | 選択 | 多様な幼児・児童の支援演習 | 2 |
| 選択 | 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 2 | 選択 | 学校ボランティア(初等)Ⅰ | 1 |
| 選択 | ワーク・ライフ・バランス論         | 2 | 選択 | 学校ボランティア(初等)Ⅱ | 1 |

#### 4. 中学校教諭一種免許状の取得に関する必要単位について

##### (1) 社会

ア. 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション(2) | 2   |
| 必修 | スポーツ(2) | 1   | 必修          | 情報処理           | 2   |

イ. 以下の教科及び教科の指導法に関する科目より、必修単位を含め28単位以上修得していること。

##### ① 教科に関する専門的事項

| 区分            | 科目名             | 単位数 | 区分              | 科目名           | 単位数 |
|---------------|-----------------|-----|-----------------|---------------|-----|
| 必修            | 歴史概説Ⅰ           | 2   | いずれかⅠ科目<br>選択必修 | 社会学           | 2   |
| 必修            | 歴史概説Ⅱ           | 2   |                 | 経済学           | 2   |
| 選択            | アジアの近代と社会       | 2   | Ⅰ科目以上<br>選択必修   | 医療社会学         | 2   |
| 必修            | 地理概説Ⅰ           | 2   |                 | 比較文化論         | 2   |
| Ⅰ科目以上<br>選択必修 | 地理概説Ⅱ           | 2   |                 | 環境社会学         | 2   |
|               | 風土と内発的發展        | 2   |                 | 国際ジャーナリズム論    | 2   |
|               | 地理情報システム(GIS)演習 | 2   |                 | 問題解決のための国際協働論 | 2   |
| 必修            | 法学Ⅰ             | 2   | いずれかⅠ科目<br>選択必修 | 哲学・倫理学        | 2   |
| Ⅰ科目以上<br>選択必修 | 法学Ⅱ             | 2   |                 | 宗教学           | 2   |
|               | 国際法             | 2   | Ⅰ科目以上<br>選択必修   | 環境倫理          | 2   |
|               | 国際関係論           | 2   |                 | 公共哲学          | 2   |
|               | 環境法             | 2   |                 |               |     |
|               | 政治学             | 2   |                 |               |     |



②教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

| 区分 | 科目名  | 単位数 | 区分 | 科目名  | 単位数 |
|----|------|-----|----|------|-----|
| 選択 | 公共演習 | 2   | 選択 | 人権演習 | 2   |
| 選択 | 平和演習 | 2   |    |      |     |

③各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

| 区分 | 科目名 | 単位数 | 区分 | 科目名 | 単 |
|----|-----|-----|----|-----|---|
|----|-----|-----|----|-----|---|

## (2)保健体育

ア. 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション(2) | 2   |
| 必修 | スポーツ(2) | 1   | 必修          | 情報処理           |     |

|    |                  |   |    |              |   |
|----|------------------|---|----|--------------|---|
| 必修 | 教育原理（中等）         | 2 | 必修 | 特別活動の指導法（中等） | 1 |
| 必修 | 教職概論（中等）         | 2 | 必修 | 教育方法・技術論（中等） | 2 |
| 必修 | 教育経営・学校安全論（中等）   | 2 | 必修 | 生徒・進路指導論（中等） | 2 |
| 必修 | 教育心理学（中等）        | 2 | 必修 | 教育相談（中等）     | 2 |
| 必修 | 特別の支援を必要とする生徒の理解 | 2 | 必修 | 教育実習（中等）Ⅰ（Ⅰ） | 5 |
| 必修 | 教育課程論（中等）        | 2 | 選択 | 教育実習（中等）Ⅰ（Ⅱ） | 3 |
| 必修 |                  |   |    |              |   |

|    |                |   |    |               |   |
|----|----------------|---|----|---------------|---|
| 必修 | 英語文学講読（１）      | 2 | 選択 | 異文化間コミュニケーション | 2 |
| 選択 | 英語文学講読（２）      | 2 | 選択 | 国際関係論         | 2 |
| 必修 | 実践英語コミュニケーションⅠ | 2 | 選択 | 比較文化論         | 2 |
| 必修 | 実践英語コミュニケーションⅡ | 2 | 選択 | 国際ジャーナリズム論    | 2 |

②教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

| 区分 | 科目 |
|----|----|
|----|----|

5. 高等学校教諭一種免許状の取得に関する必要単位について

(1) 地理歴史

ア. 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション(2) |     |

エ．先に示した教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等及び以下の大学が独自に設定する科目も含め５９単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名              | 単位数 | 区分 | 科目名          | 単位数 |
|----|------------------|-----|----|--------------|-----|
| 選択 | 生涯学習論            | 2   | 選択 | 授業実践演習（中等）   | 2   |
| 選択 | 道徳の理論・指導法（中等）    | 2   | 選択 | アクティブラーニング演習 | 2   |
| 選択 | 発達障害概論           | 2   | 選択 | 多様な生徒の支援演習   | 2   |
| 選択 | 持続可能な開発のための教育（ES |     |    |              |     |

②教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

| 区分 | 科目名  | 単位数 | 区分 | 科目名  | 単位数 |
|----|------|-----|----|------|-----|
| 選択 | 公共演習 | 2   | 選択 | 人権演習 | 2   |
| 選択 | 平和演習 | 2   |    |      |     |

③各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

| 区分 | 科目名 | 単位数 | 区分 | 科目名 | 単位数 |
|----|-----|-----|----|-----|-----|
|----|-----|-----|----|-----|-----|

### (3)保健体育

ア. 以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション(1) | 2   |
| 必修 | スポーツ(1) | 1   |             | 英語コミュニケーション(2) | 2   |
| 必修 | スポーツ(2) | 1   | 必修          |                |     |



ウ。以下の教育の基礎的理解に関する科目等より、必修単位を含め25単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名               | 単位数 | 区分 | 科目名          | 単位数 |
|----|-------------------|-----|----|--------------|-----|
| 必修 | 教育原理（中等）          | 2   | 必修 | 教育方法・技術論（中等） | 2   |
| 必修 | 教職概論（中等）          | 2   | 必修 | 生徒・進路指導論（中等） | 2   |
| 必修 | 教育経営・学校安全論（中等）    | 2   | 必修 | 教育相談（中等）     | 2   |
| 必修 | 教育心理学（中等）         | 2   | 必修 | 教育実習（中等）Ⅰ（2） | 3   |
| 必修 | 特別の支援を必要とする生徒の理解  | 2   | 選択 | 教育実習（中等）Ⅰ（1） | 5   |
| 必修 | 教育課程論（中等）         | 2   | 選択 | 教育実習（中等）Ⅱ    | 3   |
| 必修 | 総合的な学習の時間の指導法（中等） | 1   | 必修 | 教職実践演習（中等）   | 2   |
| 必修 | 特別活動の指導法（中等）      | 1   |    |              |     |

エ。先に示した教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等及び以下の大学が独自に設定する科目も含め59単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名                   | 単位数 | 区分 | 科目名           | 単位数 |
|----|-----------------------|-----|----|---------------|-----|
| 選択 | 生涯学習論                 | 2   | 選択 | 授業実践演習（中等）    | 2   |
| 選択 | 道徳の理論・指導法（中等）         | 2   | 選択 | アクティブラーニング演習  | 2   |
| 選択 | 発達障害概論                | 2   | 選択 | 多様な生徒の支援演習    | 2   |
| 選択 | 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 2   | 選択 | 学校ボランティア（中等）Ⅰ | 1   |
| 選択 | 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 2   | 選択 | 学校ボランティア（中等）Ⅱ | 1   |
| 選択 | ワーク・ライフ・バランス論         | 2   |    |               |     |

#### （４）英語

ア。以下の教職免許法施行規則第66条の6に定める科目より、必修単位を含め8単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分          | 科目名            | 単位数 |
|----|---------|-----|-------------|----------------|-----|
| 必修 | 日本国憲法   | 2   | Ⅰ科目<br>選択必修 | 英語コミュニケーション（1） | 2   |
| 必修 | スポーツ（1） | 1   |             | 英語コミュニケーション（2） | 2   |
| 必修 | スポーツ（2） | 1   | 必修          | 情報処理           | 2   |

イ。以下の教科及び教科の指導法に関する科目より、必修単位を含め24単位以上修得していること。

①教科に関する専門的事項

| 区分 | 科目名            | 単位数 | 区分 | 科目名                | 単位数 |
|----|----------------|-----|----|--------------------|-----|
| 必修 | 英語学概論Ⅰ         | 2   | 選択 | 英語表現（writing）      | 2   |
| 必修 | 英語学概論Ⅱ         | 2   | 選択 | 英語表現（conversation） | 2   |
| 必修 | 英語文学論（Ⅰ）       | 2   | 選択 | 英語表現（presentation） | 2   |
| 選択 | 英語文学論（Ⅱ）       | 2   | 必修 | 異文化理解              | 2   |
| 必修 | 英語文学講読（Ⅰ）      | 2   | 選択 | 異文化間コミュニケーション      | 2   |
| 選択 | 英語文学講読（Ⅱ）      | 2   | 選択 | 国際関係論              | 2   |
| 必修 | 実践英語コミュニケーションⅠ | 2   | 選択 | 比較文化論              | 2   |
| 必修 | 実践英語コミュニケーションⅡ | 2   | 選択 | 国際ジャーナリズム論         | 2   |

②教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分 | 科目名     | 単位数 |
|----|---------|-----|----|---------|-----|
| 選択 | 英語演習（Ⅰ） | 2   | 選択 | 英語演習（Ⅱ） | 2   |

③各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

| 区分 | 科目名     | 単位数 | 区分 | 科目名     | 単位数 |
|----|---------|-----|----|---------|-----|
| 必修 | 英語科指導法Ⅰ | 2   | 選択 | 英語科指導法Ⅲ | 2   |
| 必修 | 英語科指導法Ⅱ | 2   | 選択 | 英語科指導法Ⅳ | 2   |

ウ。以下の教育の基礎的理解に関する科目等より、必修単位を含め25単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名               | 単位数 | 区分 | 科目名          | 単位数 |
|----|-------------------|-----|----|--------------|-----|
| 必修 | 教育原理（中等）          | 2   | 必修 | 教育方法・技術論（中等） | 2   |
| 必修 | 教職概論（中等）          | 2   | 必修 | 生徒・進路指導論（中等） | 2   |
| 必修 | 教育経営・学校安全論（中等）    | 2   | 必修 | 教育相談（中等）     | 2   |
| 必修 | 教育心理学（中等）         | 2   | 選択 | 教育実習（中等）Ⅰ（Ⅰ） | 5   |
| 必修 | 特別の支援を必要とする生徒の理解  | 2   | 必修 | 教育実習（中等）Ⅰ（Ⅱ） | 3   |
| 必修 | 教育課程論（中等）         | 2   | 選択 | 教育実習（中等）Ⅱ    | 3   |
| 必修 | 総合的な学習の時間の指導法（中等） | 1   | 必修 | 教職実践演習（中等）   | 2   |
| 必修 | 特別活動の指導法（中等）      | 1   |    |              |     |

エ。先に示した教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等及び以下の大学が独自に設定する科目も含め59単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名   | 単位数 | 区分 | 科目名        | 単位数 |
|----|-------|-----|----|------------|-----|
| 選択 | 生涯学習論 | 2   | 選択 | 授業実践演習（中等） | 2   |

|    |                       |   |    |               |   |
|----|-----------------------|---|----|---------------|---|
| 選択 | 道徳の理論・指導法（中等）         | 2 | 選択 | アクティブラーニング演習  | 2 |
| 選択 | 発達障害概論                | 2 | 選択 | 多様な生徒の支援演習    | 2 |
| 選択 | 持続可能な開発のための教育（ESD）    | 2 | 選択 | 学校ボランティア（中等）Ⅰ | 1 |
| 選択 | 世界の教育事情とカリキュラム・マネジメント | 2 | 選択 | 学校ボランティア（中等）Ⅱ | 1 |
| 選択 | ワーク・ライフ・バランス論         | 2 |    |               |   |

6. 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）の取得に関する必要単位について

（1）小学校・中学校・高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有しているまたは取得見込みであること。

（2）以下の特別支援教育に関する科目より、必修単位を含め29単位以上修得していること。

| 区分 | 科目名                          | 単位数 | 区分 | 科目名              | 単位数 |
|----|------------------------------|-----|----|------------------|-----|
| 必修 | 特別支援教育論                      | 2   | 必修 | 聴覚障害教育総論         | 2   |
| 選択 | 障害児教育総論                      | 2   | 必修 | 視覚障害教育総論         | 2   |
| 必修 | <del>知的障害児・者の心理・生理・病理</del>  | 2   | 必修 | 発達障害概論           | 2   |
| 必修 | <del>肢体不自由児・者の心理・生理・病理</del> | 2   | 選択 | 発達障害教育指導法（1）     | 2   |
| 必修 | <del>病弱児・者の心理・生理・病理</del>    | 2   | 選択 | 発達障害教育指導法（2）     | 2   |
| 必修 | 知的障害児・者への支援                  | 2   | 選択 | 発達障害の判定とその教育的対応Ⅰ | 1   |
| 必修 | 肢体不自由児・者への支援                 | 2   | 選択 | 発達障害の判定とその教育的対応Ⅱ | 1   |
| 必修 | 病弱児・者への支援                    | 2   | 選択 | 自閉症児・者の心理        | 2   |
| 必修 | 知的障害教育総論                     | 2   | 選択 | 自閉症児・者への支援       | 2   |
| 必修 | 肢体不自由教育総論                    | 2   | 必修 | 教育実習（特別支援）       | 3   |
| 必修 | 病弱教育総論                       | 2   |    |                  |     |

（教育実習の要件）

第5条 「教育実習」は、以下に掲げる要件を満たす者に限って履修できるものとする。

Ⅰ. 共通要件

①総修得単位数

| 学士未取得者             | 学士既取得者 |
|--------------------|--------|
| 総修得単位数が93単位以上であること | なし     |

②ガイダンス

以下のガイダンス等に参加していること。

| ガイダンス名 | 参加年度 |
|--------|------|
|--------|------|

|               |                    |
|---------------|--------------------|
| 教職課程ガイダンス     | 教職課程登録年度以降         |
| 教育実習ガイダンス     | 教育実習を履修する年度        |
| 教育実習内諾活動ガイダンス | 教育実習内諾活動を行う年度      |
| 内諾活動事前面談      | 教育実習内諾活動を行う年度      |
| 介護等の体験ガイダンス   | 介護等の体験を行う年度（小・中のみ） |

③本学で懲戒処分を受けていない者

## 2. 科目履修要件

### ①幼稚園教諭一種免許状

|                    |                                                                                          |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目        | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。                            |
| 領域及び保育内容の指導法に関する科目 | 【領域に関する専門的事項】より3科目以上<br>【保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より3科目以上を修得していること。                     |
| 教育の基礎的理解に関する科目等    | 以下の必修5科目を修得していること。<br>「教育原理（初等）」「教職概論（初等）」「特別の支援を必要とする幼児・児童の理解」「教育課程論（初等）」「教育方法・技術論（初等）」 |

### ②小学校教諭一種免許状

|                  |                                                                                                           |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。                                             |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 【教科に関する専門的事項】より5科目以上<br>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より5科目以上を修得していること。                                       |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | 以下の必修6科目以上を修得していること。<br>「教育原理（初等）」「教職概論（初等）」「特別の支援を必要とする幼児・児童の理解」「教育課程論（初等）」「道徳の理論・指導法（初等）」「教育方法・技術論（初等）」 |

### ③中学校教諭一種免許状（社会）

|                  |                                                                                                                                                                                              |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。                                                                                                                                |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 以下の必須科目8科目を修得していること。<br>【教科に関する専門的事項】より「歴史概説Ⅰ」「歴史概説Ⅱ」「地理概説Ⅰ」「法学Ⅰ」の4科目修得必須。<br>「社会学」「経済学」のいずれか1科目及び「哲学・倫理学」「宗教学」のいずれか1科目<br>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より<br>「社会科公民科指導法Ⅰ」「社会科公民科指導法Ⅱ」の2科目修得必須。 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | 以下の必修6科目を修得していること。<br>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」                                                                                                                                 |

|  |                                          |
|--|------------------------------------------|
|  | 「教育課程論（中等）」「道徳の理論・指導法（中等）」「教育方法・技術論（中等）」 |
|--|------------------------------------------|

④中学校教諭一種免許状（保健体育）

|                  |                                                                                                                         |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。                                                           |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 以下の合計11科目を修得していること。<br>【教科に関する専門的事項】より必修科目（選択必須科目含む）9科目以上<br>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より<br>「保健体育科指導法Ⅰ」「保健体育科指導法Ⅱ」の2科目 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | 以下の必修6科目を修得していること。<br>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」<br>「教育課程論（中等）」「道徳の理論・指導法（中等）」「教育方法・技術論（中等）」                |

⑤中学校教諭一種免許状（英語）

|                  |                                                                                                                                                                                                       |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。                                                                                                                                         |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 以下の必須9科目を修得していること。<br>【教科に関する専門的事項】より<br>「英語学概論Ⅰ」「英語学概論Ⅱ」「英語文学論（Ⅰ）」「英語文学講読（Ⅰ）」<br>「実践英語コミュニケーションⅠ」「実践英語コミュニケーションⅡ」「異文化理解」<br>の7科目修得必須。<br>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より<br>「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」の2科目修得必須。 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | 以下の必修6科目を修得していること。<br>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」<br>「教育課程論（中等）」「道徳の理論・指導法（中等）」「教育方法・技術論（中等）」                                                                                              |

⑥高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

|                  |                                                                             |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | 「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。               |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 以下の必須10科目を修得していること。<br>【教科に関する専門的事項】より<br>「日本史Ⅰ」「日本史Ⅱ」「外国史Ⅰ」「外国史Ⅱ」「人文地理学」「自 |

|                 |                                                                                                            |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | <p>然地理学」「地誌概論」「地誌」の8科目修得必須。</p> <p>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より</p> <p>「地理歴史科指導法Ⅰ」「地理歴史科指導法Ⅱ」の2科目修得必須。</p> |
| 教育の基礎的理解に関する科目等 | <p>以下の必須5科目を修得していること。</p> <p>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」</p> <p>「教育課程論（中等）」「教育方法・技術論（中等）」</p>   |

⑦高等学校教諭一種免許状（公民）

|                  |                                                                                                                                                                                                |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | <p>「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。</p>                                                                                                                           |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | <p>以下の必須6科目を修得していること。</p> <p>【教科に関する専門的事項】より「法学Ⅰ」「国際法」2科目必須。</p> <p>「社会学」「経済学」のいずれか1科目及び「哲学・倫理学」「宗教学」のいずれか1科目</p> <p>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より</p> <p>「社会科公民科指導法Ⅰ」「社会科公民科指導法Ⅱ」の2科目修得必須。</p> |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | <p>以下の必須5科目を修得していること。</p> <p>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」</p> <p>「教育課程論（中等）」「教育方法・技術論（中等）」</p>                                                                                       |

⑧高等学校教諭一種免許状（保健体育）

|                  |                                                                                                                                            |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | <p>「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。</p>                                                                       |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | <p>以下の合計11科目を修得していること。</p> <p>【教科に関する専門的事項】より必修科目（選択必須科目含む）9科目以上</p> <p>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より</p> <p>「保健体育科指導法Ⅰ」「保健体育科指導法Ⅱ」の2科目</p> |
| 教育の基礎的理解に関する科目等  | <p>以下の必須5科目を修得していること。</p> <p>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」</p> <p>「教育課程論（中等）」「教育方法・技術論（中等）」</p>                                   |

⑨高等学校教諭一種免許状（英語）

|                  |                                                                                               |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66条の6に関する科目      | <p>「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4区分のうち、3区分（6単位）以上修得していること。</p>                          |
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | <p>以下の必須9科目を修得していること。</p> <p>【教科に関する専門的事項】より</p> <p>「英語学概論Ⅰ」「英語学概論Ⅱ」「英語文学論（Ⅰ）」「英語文学講読（Ⅰ）」</p> |

|                 |                                                                                                                     |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | 「実践英語コミュニケーションⅠ」「実践英語コミュニケーションⅡ」<br>「異文化理解」の7科目修得必須。<br>【各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）】より<br>「英語科指導法Ⅰ」「英語科指導法Ⅱ」の2科目修得必須。 |
| 教育の基礎的理解に関する科目等 | 以下の必須5科目を修得していること。<br>「教育原理（中等）」「教職概論（中等）」「特別の支援を必要とする生徒の理解」<br>「教育課程論（中等）」「教育方法・技術論（中等）」                           |

⑩特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

次の科目を含めて、必修科目を7科目以上修得していること。

- ・「特別支援教育論」    ・「知的障害教育総論」    ・「肢体不自由教育総論」    ・「病弱教育総論」
- ・「発達障害概論」

3. 特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）取得のための教育実習について

- ①基礎となる教員免許状を教育実習実施年度内に取得見込み、もしくは取得済みの場合のみ履修することができる。
- ②基礎となる教員免許の教育実習と同年度に履修する場合、その教育実習は基礎となる教員免許状の教育実習を先に行うこと。

（教育実践演習の要件）

第6条 「教職実践演習」を履修するためには、免許状取得に必要な単位を修得もしくは修得見込みでなければならない。

（教職課程登録申し込み）

第7条 本課程を履修しようとする者は、定められた期日までに「教職課程登録申込書」を教職総合支援センターに提出しなければならない。

（費用）

第8条 前条の届出をした者は定められた期日までに「教職課程登録費」および「教育実習管理費」を納入しなければならない。ただし、一旦納入した教職課程登録費用については、原則返金しない。

| 項 目               | 金 額     | 備 考                                          |
|-------------------|---------|----------------------------------------------|
| 教職課程登録費           | 10,000円 | 教職課程を履修する者                                   |
| 教育実習管理費<br>（幼・小免） | 50,000円 | 「教育実習（初等）（1）」を履修する者で、幼稚園・小学校教諭一種免許状の取得を希望する者 |
| 教育実習管理費<br>（幼・小免） | 50,000円 | 「教育実習（初等）（2）」を履修する者で、幼稚園・小学校教諭一種免許状の取得を希望する者 |

|                   |         |                                                          |
|-------------------|---------|----------------------------------------------------------|
| 教育実習管理費<br>(中・高免) | 50,000円 | 「教育実習(中等)Ⅰ(Ⅰ)」を履修する者で、中学校・高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者           |
| 教育実習管理費<br>(中・高免) | 50,000円 | 「教育実習(中等)Ⅰ(Ⅱ)」「教育実習(中等)Ⅱ」を履修する者で、中学校・高等学校教諭一種免許状取得を希望する者 |
| 教育実習管理費<br>(特支免)  | 50,000円 | 「教育実習(特別支援)」を履修する者で、特別支援学校免許状の取得を希望する者                   |

(有効期間)

第8条の2 教職課程登録の有効期間について、教育実習を伴う登録は教職実践演習、もしくは教育実習終了の年度末までとし、登録のみの場合は3年とする。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、別に定める規程管理規程による。

附則

この規程は、2006(平成18)年4月1日から施行する。

|          |          |
|----------|----------|
| 平成21.4.1 | 平成29.4.1 |
| 平成22.4.1 | 平成30.4.1 |
| 平成23.4.1 | 平成31.4.1 |
| 平成25.4.1 | 令和2.4.1  |
| 平成26.4.1 | 令和3.4.1  |
| 平成27.4.1 | 令和3.9.30 |
| 平成28.4.1 | 令和5.4.1  |



## 教員用要項

### 2021 年度春期 星槎大学 4 月 教職ガイダンス実施要領 Zoom 版(最終版)

担当：丸本・堀川・酒井

【目 的】 次のことを説明し、理解してもらう。

#### <教職課程ガイダンス>

1. 星槎大学の「教員養成の理念」を理解し、教職に就くことの責任を自覚する。
2. 教職課程における履修から教員免許申請までの流れについて、その概要を理解する。
3. 在学中の学習計画を立て、学習上の努力と自己研鑽を積む心構えをする。

#### <教育実習内諾活動ガイダンス>

1. 教育実習の意義と実習依頼時の心構え、マナーを確認する。
2. 教育実習実施に関する申請書、履修要件等内諾を得るまでの流れを理解する。

#### <教育実習ガイダンス>

1. 教育実習の目的を考え確認する。
2. 教育実習の心構えを理解する。
3. 教育実習中の諸注意を考え確認する。

#### 【日 時】

A 日程： 2021 年 4 月 25 日(日)

① 教職ガイダンス 1 部、2 部、3 部(10:00～11:40、13:00～14:45) ※教職員事前打ち合わせ:9:15～9:30

② 内諾活動事前面接(15:00～17:00) ※教職員事前打ち合わせ:14:15～14:30

※1 人 10 分(面接 8 分+評価票入力 2 分間)、予約制(時間帯での申込)。10 分ごとに新たな面接者を案内

※面接ごとに評価票に所見記入(Web フォーム)(全面接終了後にまとめて Web フォームに入力することも可)

| 区分    | ガイダンス名    | 時間          | 発信<br>事務局 | 対象者                      |
|-------|-----------|-------------|-----------|--------------------------|
| 第 1 部 | 教職課程ガイダンス | 10:00～11:40 | 302       | 教職課程登録をした全学生             |
| 第 2 部 | 内諾活動ガイダンス | 13:00～13:45 | 302       | 2022 年度教育実習のために内諾活動を行う学生 |
| 第 3 部 | 教育実習ガイダンス | 14:00～14:45 | 302       | 2021 年度教育実習を行う予定の学生      |

※2021 年度実習を予定していない学生は 11:40 で退出。

※介護等体験ガイダンスについては配信で各自視聴。

#### 【出席方法(学生・教員)】

Zoom による自宅からの出席

【当日の流れ】

| 時 間                | 項 目                                                 | 担 当                                                    | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 月 25 日(日)教職ガイダンス |                                                     |                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 9:00               | 接続テスト(学生)                                           | 事務局員                                                   | 音声映像確認。希望学生のみ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 9:15～              | 教員(Zoom 参加)                                         | 手島先生                                                   | 教職員事前打ち合わせ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 10:00              | 開講アナウンス                                             | 丸本先生                                                   | 司会・進行。第1部流れアナウンス                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 10:02～<br>10:05    | 第1部<br>挨拶～教員免許を<br>取得するには                           | 手島先生                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職を目指すことについて</li> <li>・ 星槎大学の「教員養成の理念」について</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 10:05～<br>10:20    | 教職課程における<br>履修から教員免許<br>申請までの流れに<br>ついて<br>※概要、注意事項 | 事務局員<br>( 酒井 )<br>※持参す<br>る手引が<br>異なるの<br>でページ<br>案内注意 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学で取得可能な専攻ごとの免許状について</li> <li>・ 教員免許取得までのスケジュール</li> <li>・ 学習計画について…必修科目の確認、履修相談、履修の順番等、計画の立て方</li> <li>・ 教育実習履修要件について(校種ごとの教育実習履修要件の確認、英語の語学力の注意喚起について触れる)</li> <li>・ 実習までの流れについて</li> <li>・ 教職実践演習、履修カルテ、自己評価について</li> <li>・ 教職実践演習</li> <li>・ 教員免許申請について</li> <li>・ その他</li> </ul> |
| 10:20～<br>11:10    | グループディスカッ<br>ション                                    | 各運営委<br>員                                              | <p>グループディスカッション</p> <p>ディスカッションテーマ:「私が教師を目指した理由」</p> <p>※学生 10 名で 1 グループの予定(当日の出席人数により異なる)。運営委員の先生は一人 2 グループほど担当し、適宜助言する。</p>                                                                                                                                                                                                  |
| 11:10～<br>11:35    | 発表                                                  | 丸本先生                                                   | <p>各グループの代表者がディスカッションの内容を発表</p> <p>※発表時間は 1 グループ 1 分程度</p>                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 11:35～<br>11:38    | まとめ                                                 | 丸本先生                                                   | 第一部ガイダンス、グループディスカッションの振り返り                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 11:38～<br>11:40    | アンケートの案内/<br>散会                                     | 事務局員                                                   | Web フォームからのアンケート提出の案内/休憩<br>次年度の実習予定でない学生はここで退出                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 13:00～<br>13:02    | 開講アナウンス                                             | 堀川先生                                                   | 司会・進行。第2部の流れアナウンス                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 13:02～<br>13:10    | 第2部開始<br>挨拶～内諾活動に<br>ついて                            | 手島先生                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 星槎大学の教職課程について</li> <li>・ 内諾活動ガイダンス実施の意義について</li> <li>・ 星槎大学の学生として教育実習を実施することの意味</li> </ul>                                                                                                                                                                                            |
| 13:10～<br>13:30    | 内諾活動の基本事<br>項と注意点                                   | 事務局員<br>( 椎橋 )                                         | ・ 内諾活動を行う条件…教育実習履修要件(学習状況、学習計画について)                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|                 |                             |                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | (事務局)                       |                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・内諾活動を行うための書類について…教育実習実施申請(Web)、履修計画書(Web)⇒内諾に関する書類について、内諾活動事前課題について</li> <li>・内諾を取り付ける上での基本的な姿勢について…連絡のとり方、訪問時のマナー(服装等)、時期、日程期間の決め方等、複数校からの内諾取得禁止</li> <li>・教育委員会、校長会を通して実習校が配当される場合、承認書の提出が必要な場合(※横浜市など申請が早い自治体があることを告知)</li> <li>・内諾を取り付けられたことが意味することについて…公文書でのやりとりであることの意味、キャンセル防止</li> <li>・内諾を得られた後の流れについて、提出書類の期限厳守</li> <li>・不明な点や変更等があれば速やかに大学へ報告をする</li> <li>・実習の手引き等 配布物は必ず目を通す</li> <li>・教職実践演習、履修カルテ、自己評価表について</li> </ul> |
| 13:30～<br>13:40 | 質疑応答                        | 事務局員<br>担当教員                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 13:40～<br>13:45 | アンケートの案内／散会                 | 事務局員                         | Web フォームからのアンケート提出の案内／休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 14:00～<br>14:02 | 開講アナウンス                     | 堀川先生                         | 司会・進行。第3部の流れアナウンス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 14:03～<br>14:10 | 第3部<br>挨拶～教員になるということ        | 手島先生                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になるということについて</li> <li>・教育実習の目的について</li> <li>・教育実習の心構えについて</li> <li>・星槎大学の学生として教育実習を実施することの意味</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 14:10～<br>14:25 | ①教育実習実施にあたっての注意事項等<br>(事務局) | 事務局<br>(平林)<br>※ゲスト:<br>丸本先生 | <p>(教育実習のしおりを中心に説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習履修要件の確認(修得状況の確認と免許申請までの学</li> <li>習計画について</li> <li>・大学から学生に送付する書類についての説明</li> <li>・健康診断書の受診について(受診必須)</li> <li>・感染症(新型コロナウイルス感染症含む)対策</li> <li>・実習先でのオリエンテーションについて</li> <li>・実習中の諸注意について</li> <li>・教育実習日誌の記載について</li> </ul>                                                                                                                                                                               |

|                     |             |               |                                                                                                                                                                                                |
|---------------------|-------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     |             |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導体制に関して(指導のあり方、指導を受けるにあたってのマナーや心構え、必要に応じて巡回指導にも触れる)</li> <li>・実習終了後の書類送付の流れについて(レターパック)</li> <li>・教職実践演習、履修カルテ、自己評価について</li> </ul> (※ゲストスピーカー:丸本先生) |
| 14:25～<br>14:35     | ②免許申請について   | 事務局<br>(平林)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人申請対象学生と申請までの流れについて</li> <li>・一括申請対象学生と申請までの流れについて</li> <li>・申請時期と単位認定時期に関して</li> <li>・申請年度の学習計画について</li> </ul>                                       |
| 14:35～<br>14:40     | 質疑応答        | 事務局員<br>担当教員  |                                                                                                                                                                                                |
| 14:40～<br>14:45     | アンケートの案内／散会 | 事務局員          | Web フォームからのアンケート提出の案内／休憩                                                                                                                                                                       |
| 4 月 25 日(日)内諾活動事前面接 |             |               |                                                                                                                                                                                                |
| 14:15～<br>14:30     | 教員(Zoom 参加) | 担当教員<br>(全校種) | 教職員事前打ち合わせ                                                                                                                                                                                     |
| 15:00～<br>17:00     | 面接          | 担当教員<br>(全校種) | 面接<br>※ <u>1 人 10 分 (面接 8 分 + 評価票入力 2 分)</u><br>※面接ごとに評価票に所見記入(Web フォーム)(全面接終了後にまとめて Web フォームに入力することも可)                                                                                        |
| 終了後                 | 面接の所見提出     | 担当教員<br>(全校種) | 教職総合支援センターに提出(Web フォーム)<br>※ <b>提出期限: 当日中</b>                                                                                                                                                  |

以上



[illegible]

## ①教職課程履修カルテ

小学校1種免許状

|      |          |    |       |                |    |
|------|----------|----|-------|----------------|----|
| 学籍番号 | 19〇〇〇〇〇〇 | 氏名 | 星槎 花子 | 科目等履修生 又は 〇〇〇〇 | 専攻 |
|------|----------|----|-------|----------------|----|

| 区分          | 科目名      | 単位 | 修得年度 | 担当教員   | 評価 | 自己評価                                | 今後の課題                                                      |
|-------------|----------|----|------|--------|----|-------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 教科に関する専門的事項 | (例)〇〇〇〇〇 | 2  | 2018 | 〇〇 × × | A  | ( 記入見本 ) 学修指導要領の内容や学修指導案の書き方を理解できた。 | ( 記入見本 ) 学修内容は理解できたが深い教材探求に裏付けられたものでないだったので今後さらなる学修が必要である。 |
|             | 教科(国語)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(社会)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(算数)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(理科)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(生活)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(音楽)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(図画工作) |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(家庭)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(体育)   |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             | 教科(外国語)  |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             |          |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             |          |    |      |        |    |                                     |                                                            |
|             |          |    |      |        |    |                                     |                                                            |

| 区分                       | 科目名            | 単位 | 修得年度 | 担当教員 | 評価 | 自己評価 | 今後の課題 |
|--------------------------|----------------|----|------|------|----|------|-------|
| 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） | 初等教科教育法（国語）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 初等教科教育法（社会）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 初等教科教育法（算数）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 初等教科教育法（理科）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 初等教科教育法（生活）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 初等教科教育法（音楽）    |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
| 初等教科教育法（図画工作）            |                |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
| 初等教科教育法（家庭）              |                |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
| 初等教科教育法（体育）              |                |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
| 初等教科教育法（外国語）             |                |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
| 教育の基礎的理解に関する科目           | 教育原理（初等）       |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 教職概論（初等）       |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |
|                          | 教育経営・学校安全論（初等） |    |      |      |    |      |       |
|                          |                |    |      |      |    |      |       |



| 区分                                                                      | 科目名                               | 単位 | 修得年度 | 担当教員 | 評価 | 自己評価 | 今後の課題 |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|----|------|------|----|------|-------|
| 基礎的<br>理解に<br>関する<br>科目                                                 | 教育心理学(初等)                         |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解               |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 教育課程論(初等)                         |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
| 導徳、<br>教育、<br>総合的<br>な学習<br>に関す<br>る時間<br>等科目<br>の指導<br>法及び<br>生徒指<br>導 | 道徳の理論・指導法(初等)                     |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 総合的な学習の時間の指導法(初等)                 |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 特別活動の指導法(初等)                      |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 教育方法・技術論(初等)                      |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 生徒・進路指導論(初等)                      |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         | 教育相談(初等)                          |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |
| 教育実<br>践科目                                                              | 教育実習(初等)(1)<br>または<br>教育実習(初等)(2) |    |      |      |    |      |       |
|                                                                         |                                   |    |      |      |    |      |       |

#### 介護等体験について

#### 学校ボランティアについて

- ・このカルテは4年次に履修する「教職実践演習」において参考資料の一つとして使用すると共に今までの学修状況の振り返りとなります。
- ・3月または9月の単位認定毎に記入してください。
- ・4年の「教職実践演習」受講年度の単位認定前の科目に関しては記入時点での振り返りを記入して空欄が無いようにしてください。
- ・他大学で修得された科目につきましては、それぞれの大学指定の「教職課程履修カルテ」をご提出ください。準備ができない場合は教職総合支援センターまでご相談ください
- ・介護等体験・学校ボランティアは実施された場合のみ記入ください。

＜履修カルテ②＞（自己評価）（ ）専攻 学籍番号（ ）氏名（ ） ※19・20カリキュラム、13・14カリキュラム共通の様式です。

＜活用方法＞  
 ①「5段階自己評定」欄は、「事前指導後」「教育実習後」それぞれの時期において、各指標について自分の現在の状態を5段階（5－そうである 4－ややそうである 3－どちらでもない 2－やや不足している 1－不足している）で評価する。  
 ②「自己の課題」欄は各指標について教育実習を通して自分自身が感じた課題について具体的に記入する。

| 項目               | 指標                                              | 5段階自己評定 |       | 自己の課題（教育実習後に自己の課題を記載する） |
|------------------|-------------------------------------------------|---------|-------|-------------------------|
|                  |                                                 | 事前指導後   | 教育実習後 |                         |
| 教育に対する情熱・使命感     | 教育に対する情熱・使命感を高めるための努力をしている                      |         |       |                         |
| 教育の重要性の認識        | 教育の重要性と社会的意義・責任を深く認識している。                       |         |       |                         |
| 教科教育に関する専門的知識    | 取得する免許に関する専門的知識を十分に有している。                       |         |       |                         |
| 授業実践に関する力量       | 授業あるいは模擬授業、プレゼンテーションなどを通じて授業実践に関する力量を高めようとしている。 |         |       |                         |
| 子どもとともに歩む姿勢      | 子どもを一人の人間として尊敬し、共に成長する存在となることを目指している。           |         |       |                         |
| 子どもとのかかわりの経験     | 学校ボランティア等を通じて、積極的に子どもと触れ合う機会を持つようとしている。         |         |       |                         |
| 幅広い教養            | 一般常識を踏まえ、社会人として必要となる教養を身につけている。                 |         |       |                         |
| 社会性と協調性を兼ね備えた人間性 | 他者と積極的に交流し、共同して作業を行うことができる。                     |         |       |                         |

## 第 8 章 教職実践演習と履修カルテ

学生ポータルサイトから「教職課程履修カルテ」「履修カルテ（自己評価）」の様式をダウンロード

ダウンロード場所：学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

### 1. 教職実践演習について

「教職実践演習」は教職課程履修の総まとめとして、教育実習後の 4 年次に受講する科目となり、これまでに身につけてきた知識・技能を振り返り、教員として最低限必要な資質能力が身に付いているかを確認するためのものである。これからの教員には社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るために社会からの尊敬・信頼を受け、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有することが求められている。また、教職生活全体を通じて実践的指導力等を高めるとともに、探究力をもち学び続ける存在でなければいけない。本科目の履修にあたっては、学修指導書を熟読し、スクーリング受講に備えて早めに準備を行うことが求められる。

これからの教員に  
求められる資質能力

1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
2. 社会性や対人関係能力に関する事項
3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項

### 2. 履修カルテについて

「履修カルテ」には、教職課程の科目履修を始めてから「教育実習」を経て「教職実践演習」を履修するまでの学修状況の記録及び「教育実習」の前後に実施される「教員として必要な資質」についての自己評価を記入してもらう。「履修カルテ」を記入することによって、学生自らが「共生」という本学の建学の精神を踏まえつつ教員免許状取得に向けてどのような学修が必要なのかを考え、また「教職実践演習」や補完的な教職指導に活用する。

#### 1) 提出時期

##### ①『教職課程履修カルテ』

年 2 回、3 月末、9 月末の単位認定ごとに入力（記入）し、教職実践演習受講の 2 週間前までに完成したものを学生ポータルサイトの提出フォームから提出（アップロード）すること。ただし、教職実践演習を受講する年度には、単位認定前であっても履修中の科目について入力（記入）を済ませる。

※他大学で修得済み科目がある場合、他大学の様式で作成した教職課程履修カルテも提出が必要。

##### ②『履修カルテ（自己評価）』

教育実習終了後、教職実践演習受講の 2 週間前までに教職課程履修カルテとともに提出（アップロード）すること。

教育実習事前指導(スクーリング)の受講後、および教育実習終了後のそれぞれの時期に 5 段階で自己評価をし、教育実習実施後は「自己課題」を具体的に記載すること。

#### 留意点

- ・『教職課程履修カルテ』および『履修カルテ（自己評価）』の提出が確認できない場合、「教職実践演習」は受講できないので、注意すること。
- ・受講の際には必ず実習日誌（コピー）を持参すること。
- ・そのほか注意事項については学修指導書を確認すること。

## 2) 提出先

学生ポータルサイト：教職課程登録者用ページ→教職実践演習

## 3) 教職課程履修カルテの記入方法について

①履修した科目について入力することになるので、履修しなかった科目を入力する必要はない。

介護等体験や学校ボランティアについても、実施していない場合は記入は不要。

②入力後は誤字・脱字・表記表現の誤りなどがないように見直すこと。

③各ページの記入時期について

| 項 目                              | 記入時期                                                            |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目・教育の基礎的理解に関する科目等 | 単位認定（3月末以降、9月末以降）に入力。<br>教職実践演習受講年度の履修科目については教職実践演習受講前までに状況を入力。 |
| 介護等体験について                        | 実施学生は施設にて介護等体験が終了した後、速やかに入力。                                    |
| 学校ボランティア                         | 学校ボランティアを行った際に入力。                                               |

## 4) 教育の基礎的理解に関する科目等の記入方法について

下記の表をもとに、各科目に含める必要事項について理解し、学修をすることができたかを教育の基礎的理解に関する科目等の「教職課程履修カルテ」に記入すること。

### 【初等】

| 科目名                 | 各科目に含める必要事項                                   |
|---------------------|-----------------------------------------------|
| 教育原理（初等）            | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想                          |
| 教職概論（初等）            | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）            |
| 教育経営・学校安全論（初等）      | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |
| 教育心理学（初等）           | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程                        |
| 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解                    |
| 教育課程論（初等）           | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）             |
| 道徳の理論・指導法（初等）       | 道徳の理論及び指導法                                    |
| 総合的な学習の時間の指導法（初等）   | 総合的な学習の時間の指導法                                 |
| 特別活動の指導法（初等）        | 特別活動の指導法                                      |
| 教育方法・技術論（初等）        | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）                    |
| 幼児理解の理論と方法          | 幼児理解の理論及び方法                                   |
| 生徒・進路指導論（初等）        | 生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法               |
| 教育相談（初等）            | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法            |
| 教育実習（初等）（1）（2）      | 教育実習                                          |

## 【中等】

| 科目名                 | 各科目に含める必要事項                                   |
|---------------------|-----------------------------------------------|
| 教育原理（中等）            | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想                          |
| 教職概論（中等）            | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）            |
| 教育経営・学校安全論（中等）      | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |
| 教育心理学（中等）           | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程                        |
| 特別の支援を必要とする幼児・児童の理解 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解                    |
| 教育課程論（中等）           | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）             |
| 道徳の理論・指導法（中等）       | 道徳の理論及び指導法                                    |
| 総合的な学習の時間の指導法（中等）   | 総合的な学習の時間の指導法                                 |
| 特別活動の指導法（中等）        | 特別活動の指導法                                      |
| 教育方法・技術論（中等）        | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）                    |
| 生徒・進路指導論（中等）        | 生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法               |
| 教育相談（中等）            | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法            |
| 教育実習（中等）Ⅰ（１）（２）     | 教育実習                                          |

※注意：他大学等で教職課程を履修する場合には、その大学等から「教職課程履修カルテ」の提出を求められることもある。「教職課程履修カルテ」は教育職員免許状を取得するまで大切に保管しておくこと。

## 5) その他

他大学で修得した科目は他大学で作成した教職課程履修カルテを提出すること。

他大学での教職課程履修カルテを準備できない場合は教職総合支援センターまで相談すること。

また、実務経験を実習単位に振り替えることにより教育実習を実施しない場合や、他大学で教育実習（取得希望免許状と同一校種）を実施済みでかつ教育実習日誌が手元にない場合は、別途課題提出（スクーリング受講の２週間前まで）が必要であるため、教職総合支援センターまで早めに相談すること。

### 3.「教職実践演習」スクーリング受講要件について

科目の特性上、教職課程の最後に教育実習を含め、必要科目を振り返り、教員としての資質を見極めるので、教育実習が終了後、必要科目の学修がほぼ修了している必要がある。単位認定はされていないまでも、必要科目について4分の3以上の科目は修得済もしくは成績（合格）が出ている状況で受講すること。

自身の学修スケジュールと、「教職実践演習」のスクーリングスケジュールとを確認のうえ、適切な時期のスクーリングを受講すること。

#### 確認！

- ①『教職課程履修カルテ』『履修カルテ(自己評価)』を受講の2週間前までに提出していること。
- ② 必要科目の4分の3以上を修得済、もしくは成績（合格）が出ていること。

星槎大学

## 教育実習のしおり

\_\_\_\_年度

|               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 学 籍 番 号 ・ 名 前 | 学籍: _____ 名前: _____   |
| 学 校 名<br>園 名  | 立 _____ 学校・園          |
| 実 習 期 間       | 年 月 日 ( ) ~ 年 月 日 ( ) |

紛失厳禁

 実習時に持参すること！





## 目 次

|      |                          |     |
|------|--------------------------|-----|
| I    | 教育実習とは何か                 | 3   |
|      | 1. 教育実習の意義               |     |
|      | 2. 教育実習の目的               |     |
|      | 3. 教育実習の内容               |     |
| II   | 教職科目履修状況確認について           | 4   |
| III  | 教育実習の心得                  | 5   |
|      | 1. 教育実習事前オリエンテーション       |     |
|      | (1) オリエンテーション時の基本的心得     |     |
|      | (2) オリエンテーションでの確認事項      |     |
|      | (3) オリエンテーションの報告         |     |
|      | 2. 教育実習                  |     |
|      | (1) 基本的な心得               |     |
|      | (2) 教育実習期間中の携帯品          |     |
|      | (3) 服装について               |     |
|      | (4) 勤務上の注意点              |     |
|      | (5) 情報の取り扱いについて          |     |
|      | (6) 園児・児童・生徒に接する心得       |     |
|      | (7) 教育実習の実務についての心得       |     |
|      | (8) 教育実習日誌について           |     |
|      | (9) 教育実習終了後について          |     |
|      | 3. 大学との情報連携について          |     |
| IV   | 教育実習事前提出書類について           | 10  |
| V    | 麻しんワクチンの接種と健康診断受診について    | 11  |
| VI   | 教育実習年度の流れ・書類等について        | 12  |
|      | 1. 教育実習年度初めの流れ           |     |
|      | 2. 各種書類について              |     |
|      | 3. 2で送付した書類及びその他準備物について  |     |
|      | 4. その他教育実習に関わる留意点        |     |
|      | 5. 教育実習終了後               |     |
|      | 6. 教育実習日誌返却              |     |
| VII  | 個別指導体制について               | 15  |
| VIII | 教育実習科目について               | 17  |
| IX   | 教職実践演習受講について             | 18  |
|      | 教育実習個人調査書、誓約書、健康診断票の記入見本 | 19  |
|      | 教育実習校（園）オリエンテーション報告書     | 22  |
|      | 教育実習日誌（見本）               |     |
|      | 学習指導案（例）                 |     |
|      | 連絡先(問合せ先)                | 23  |
|      | 教育実習実施前から終了までの流れと提出書類確認表 | 裏表紙 |

## 星槎大学「教員養成の理念」

星槎大学共生科学部における教員養成の理念は以下のとおりである。

### 【星槎大学共生科学部 教員養成の理念】

星槎大学共生科学部共生科学科は、人と人と、あるいは人と自然とが共生する社会の創造に貢献することを目的とした「共生」という建学の精神をふまえ、21 世紀に適応する広い知力の育成、心の耕作、課題探求能力育成を主要な柱として、それを教育理念としている。

その人材養成目標は、次代へと続く共生社会に寄与する人材の輩出にある。

共生社会の創造に貢献するために、子どもたちへ本学で学修したことを伝えていくことができる人材を輩出することが、本学における教員養成の理念である。

## 星槎大学「教職課程の設置の趣旨」

星槎大学共生科学部における教職課程の設置の趣旨は以下のとおりである。

### 【星槎大学共生科学部 教職課程の設置の趣旨】

星槎大学は、「建学の精神」「教育理念」を「教員養成に対する理念」の基礎としている。

本学が教職課程を設置する趣旨は、それらを具現化することにある。具体的には、以下のよう  
な教員を養成することにある。

- (1) 21 世紀の変化に応じた知識・技能の絶えざる刷新を指向する教員の養成
- (2) 共生する心を耕作することのできる教員の養成
- (3) 課題探求能力をもった教員の養成
- (4) 発達障害児等を指導する能力をもった教員の養成

また、本学校法人の建学の精神である「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」ということと、教育理念である「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現を目指し、それを成し遂げる」というものは、本学設置の大元にあるものであり、全ての教育活動に共通するものである。

「教育実習のしおり」は、教育実習に参加するにあたって心がける点について詳細に案内している。熟読し、実習時にも必ず持参し状況に応じた言動が取れるようにすること。

# 教員を目指す人のために

-初等教育編-

To pursue your dream



星槎大学教職総合支援センター

## 入学から卒業までの流れ (1年次入学の場合)

|          | 学事日程                                   | 教員採用                                                 | 教職関係                                                       |
|----------|----------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1年次      | 4月 入学式(4月入学)<br>新入生オリエンテーション<br>履修登録   | 教職課程ガイダンス<br>学校ボランティアⅠ                               | (春の教員採用試験対策講座)                                             |
|          | 10月 入学式(10月入学)<br>新入生オリエンテーション<br>履修登録 | 教職課程ガイダンス<br>学校ボランティアⅠ                               | (秋の教員採用試験対策講座)                                             |
|          | 4月 履修登録                                | 学校ボランティアⅠ<br>介護等体験(前年に申込必要<br>2年次～4年次に実施可能)          | (春の教員採用試験対策講座)                                             |
| 2年次      | 10月 履修登録                               |                                                      | (秋の教員採用試験対策講座)                                             |
|          | 4月 履修登録<br>5月                          | 学校ボランティアⅠ<br>教育実習内語活動ガイダンス<br>内語活動事前試験<br>教育実習内語活動開始 | 春の教員採用試験対策講座<br>ふこはな教育系「アイ・カン<br>ンジ」<br>かながわティーチャーズ<br>クール |
| 3年次      | 10月 履修登録                               | (教育実習一括申込 一括<br>地域と学校履のみ)                            | 秋の教員採用試験対策講座                                               |
|          | 4月 履修登録<br>共生研究または卒業論文                 | 教育実習ガイダンス<br>教育実習事前指導<br>教育実習<br>教育実習事後指導<br>教職実践演習  | 春の教員採用試験対策講座<br>採用試験<br>合格者発表                              |
| 4月<br>年次 | 10月 履修登録                               | 学校ボランティアⅡ<br>卒業認定<br>免許状申請                           | 赴任先決定                                                      |
|          | 3月 卒業<br>9月 卒業                         | 卒業認定                                                 |                                                            |

# 入学から卒業までの (3年次編入学の場合)

|             |     | 学事日程                    | 教職関係                                                                 | 教員採用                                                |
|-------------|-----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 3<br>年<br>次 | 4月  | 入学式<br>履修登録             | 学校ボランティアⅠ<br>教職関係ガイダンス                                               | 春の教員採用試験対策講座<br>よこはま教研塾「アイ・カレッジ」<br>かながわティーチャーズスクール |
|             | 5月  |                         | 教育実習内語活動ガイダンス<br>内語活動事前面談<br>教育実習内語活動開始<br>(教育実習一括申込 一部地<br>域と学校種のみ) |                                                     |
|             | 10月 | 入学式<br>履修登録             | 教職関係ガイダンス<br>教育実習内語活動ガイダンス<br>内語活動事前面談<br>教育実習内語活動開始(～12月<br>項目迄)    | 秋の教員採用試験対策講座                                        |
|             | 4月  | 履修登録<br>共生研究または卒業<br>論文 | 教育実習ガイダンス<br>教育実習事前指導<br>教育実習・介護等体験<br>教育実習事後指導 教職実践<br>演習           | 春の教員採用試験対策講座<br>採用試験<br>合格者発表                       |
| 4<br>年<br>次 | 10月 | 履修登録                    | 学校ボランティアⅡ<br>卒業認定                                                    |                                                     |
|             | 3月  | 卒業                      | 免許状申請<br>卒業認定                                                        | 起任先決定                                               |
|             | 9月  | 卒業                      |                                                                      |                                                     |

## 目 次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 時代を築く教師たれ                         | 1  |
| 第1章 教員になるということ                    |    |
| この章のねらい                           | 2  |
| 1. 中央審議会の答申について                   | 2  |
| 2. 星槎大学の目指す教員像について                | 5  |
| 第2章 どのように学ぶか                      |    |
| この章のねらい                           | 7  |
| 1. カリキュラム・マネジメント                  | 8  |
| 2. 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点から） | 10 |
| 3. 新学習指導要領が示す深い学びの中核となる「見方・考え方」   | 12 |
| 4. 学習評価                           | 13 |
| 5. 特別の支援が必要な幼児・児童の理解              | 14 |
| 6. 国語科                            | 16 |
| 7. 社会科                            | 18 |
| 8. 算数科                            | 20 |
| 9. 理科                             | 22 |
| 10. 生活科                           | 24 |
| 11. 音楽科                           | 26 |
| 12. 図画工作科                         | 28 |
| 13. 家庭科                           | 30 |
| 14. 体育科                           | 32 |
| 15. 外国語活動・外国語科                    | 34 |
| 16. 特別の教科 道徳                      | 36 |
| 17. 総合的な学習の時間                     | 38 |
| 18. 特別活動                          | 40 |
| 第3章 学校の様子を知る                      |    |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| この章のねらい               | 44 |
| 1. 先生の1日              | 44 |
| 2. 学級づくりのスタート、年度初めの学級 | 45 |
| 3. 担任の配慮と工夫           | 46 |
| 4. 朝の会・帰りの会           | 47 |
| 5. 給食指導、清掃指導          | 48 |
| 6. 教室の環境づくり           | 50 |
| 7. 児童・生徒指導            | 51 |
| 8. 保護者・地域連携           | 53 |
| <参考>部活動(中学校・高等学校の場合)  | 56 |

#### 第4章 教育現場で学ぶ・自己を見つめる

|                            |    |
|----------------------------|----|
| この章のねらい                    | 59 |
| 1. 教育現場を知る ― 介護体験、学校ボランティア | 59 |
| 1) 介護体験                    | 59 |
| 2) 学校ボランティア                | 61 |
| 2. 教育現場を体験する ― 教育実習        | 77 |
| 3. 学びを振り返る ― 教職実践演習        | 88 |

#### 第5章 幼稚園教育を知る

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| この章のねらい                 | 92  |
| 1. 幼稚園教育の基本             | 93  |
| 2. 幼児教育の特性と幼稚園教育の役割     | 97  |
| 3. 心身の健康に関する領域「健康」      | 99  |
| 4. 人とかかわりに関する領域「人間関係」   | 101 |
| 5. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 | 103 |
| 6. 言葉の獲得に関する領域「言葉」      | 105 |
| 7. 感性と表現に関する領域「表現」(音楽)  | 107 |
| 8. 感性と表現に関する領域「表現」(造形)  | 109 |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                      |              |                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|--------------|-----------------------------------------------------|
| 授業科目名：<br>授業実践演習<br>(初等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 教員の免許状取得のための<br>選択科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：仲 <sup>なか</sup> 久徳 <sup>ひさのり</sup><br>担当形態：単独 |
| 実務内容<br>(実務家教員の場合)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                      |              |                                                     |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 大学が独自に設定する科目         |              |                                                     |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | なし                   |              |                                                     |
| 「学位授与の方針」との関係<br>・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。<br>・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。<br>・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。                                                                                                                                                                                                                                |                      |              |                                                     |
| 授業の到達目標及びテーマ<br>・授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を理解する。<br>・授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。<br>・授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。<br>・授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。                                                                                                                                                                                                                            |                      |              |                                                     |
| 授業の概要<br>テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。                                                                                                                                                                                                                     |                      |              |                                                     |
| 授業計画<br>第1回：ガイダンス<br>第2回：授業デザインの基礎①ー目標の分析・設定と評価規準・基準の設定<br>第3回：授業デザインの基礎②ー教材研究<br>第4回：授業デザインの基礎③ー指導形態、指導方法、指導過程<br>第5回：授業運営の方法と技術①ーリーダーシップ、人間関係<br>第6回：授業運営の方法と技術②ー授業マネジメント<br>第7回：授業運営の方法と技術③ー授業コミュニケーション<br>第8回：授業評価の方法と技術①ー量的分析<br>第9回：授業評価の方法と技術②ー質的分析<br>第10回：授業実践①ー授業デザイン<br>第11回：授業実践②ー模擬授業<br>第12回：授業実践③ー相互評価<br>第13回：授業実践④ー学習指導案の作成<br>第14回：授業研究と授業改善<br>第15回：まとめ<br>定期試験 |                      |              |                                                     |

＊スクーリングでは、第１０回～第１３回を実施する。

テキスト

（１）稲垣 忠・鈴木 克明（編著）『授業設計マニュアル Ver.2－教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房 2015 年

参考書・参考資料等

- （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年
- （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- （４）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年

学生に対する評価：

レポート（25％）、スクーリング（25％）、科目修得試験（50％）の割合で総合して評価する。

授業実践演習（初等）（担当：仲<sup>なか</sup>久<sup>ひさのり</sup>徳）

E-mail: h\_naka@seisa.ac.jp

| 科目コード      | 単位数<br>( ) 内は SC                                                                                                                                                                                                                                       | レポート<br>(RE) | スクーリング<br>(SC) | 科目修得<br>試験 | 学修の順番 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------|------------|-------|
| 546187     | 2 (0.5) 単位                                                                                                                                                                                                                                             | 1 本          | 1 日            | レポート方式     | RE→SC |
| 備考         | <p>【教員免許】 幼稚園・小学校「大学が独自に設定する科目」</p> <p>【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の 1 週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。</u></p> <p><u>事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u></p> <p>【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、対面スクーリング時に持参すること。</p> |              |                |            |       |
| スクーリングの持ち物 | 教科書、筆記用具、ノート                                                                                                                                                                                                                                           |              |                |            |       |
| 教科書        | 稲垣 忠・鈴木 克明（編著）『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン(ver.2)』北大路書房                                                                                                                                                                                             |              |                |            |       |
| キーワード      | 授業づくり、授業コミュニケーション、学習指導案                                                                                                                                                                                                                                |              |                |            |       |
| クラスコード     |                                                                                                                                                                                                                                                        |              |                |            |       |

## ■授業の到達目標及びテーマ

- (1) 授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術について理解する。
- (2) 授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。
- (3) 授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。

## ■授業の概要

テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。

## ■学修の流れと進め方

## &lt;学修の流れ&gt;

- ①レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験（レポート方式）を提出する。

**<学修の進め方>**

- ①テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学ぶ。
- ②スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

**■レポート学修****レポートのテーマ（2,000 字～3,000 字程度）**

まず、「授業」とはどのような働きなのかについてあなたの考えを述べ、テキストを通して学んだことのうち、①「授業デザイン（授業設計）」、②「授業運営」の2点について、あなたが重要だと考えるポイントを説明し、なぜ、重要だと考えたのか説明してください。

**レポートの評価基準**

- （1）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （2）レポート構成は「序論」、「本論」、「結論」の構成になっていること。
- （3）「序論」では、「授業」の働きについて自らの考え方について述べていること。
- （4）「本論」では、「授業デザイン（授業設計）」、「授業運営」の2点において重要だと考えるポイントについてテキストの内容を参照して説明していること。
- （5）「結論」では、なぜ、重要だと思ったのか「序論」での「授業」の働きと関連付けて説明していること。
- （6）引用文献、参考文献等を文末に明記していること。（教科書も一つの文献として取り上げること。）

**■スクーリング学修****スクーリングの事前学修：**

指定された教科書をよく読み、オンデマンド教材をよく視聴し、以下の「■学修の具体的な進め方」に掲げるテーマ①・②・③の学修およびレポート作成に取り組む。

**スクーリングでの学修内容：**

事前配布する教材をもとにして授業コミュニケーションの核となる「発問」と「板書」に着目した授業をデザインし、参加者による模擬授業、討論を通して、効果的な授業づくりについて学ぶ。最後に、科目修得試験（レポート方式）に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

**スクーリングの事後学修：**

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成し、科目修得試験（レポート方式）として提出する。

## ■学修の具体的な進め方

|                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>テーマ①：授業デザインの基礎</b><br>シラバス：第 1 回～第 4 回 テキスト：第 1 章～第 8 章                                                                                                                   |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>授業デザイン（授業設計）の基礎である「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から授業デザイン（授業設計）のポイントを説明できる。                                                                              |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。                                                                                                                            |
| <b>研究課題</b><br>（１）テキストに沿って「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」のポイントをまとめよう。<br>（２）具体的な授業例で効果的な授業デザイン（授業設計）について「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。                         |
| <b>テーマ②：授業運営の方法と技術</b><br>シラバス：第 5 回～第 7 回 テキスト：第 9 章～第 12 章                                                                                                                 |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>授業運営の方法と技術に関して「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から効果的な授業運営のあり方を説明できる。                                                                       |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。                                                                                                                            |
| <b>研究課題</b><br>（１）テキストに沿って「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」のポイントをまとめよう。<br>（２）具体的な授業例で効果的な授業運営について「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。 |
| <b>テーマ③：授業評価の方法と技術</b><br>シラバス：第 8 回～第 9 回 テキスト：第 13 章～第 14 章                                                                                                                |
| <b>到達目標（何を学ぶか）</b><br>効果的な授業評価・改善の方法を説明できる。                                                                                                                                  |
| <b>学修の進め方（どう学ぶか）</b><br>テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。                                                                                                                            |
| <b>研究課題</b><br>具体的な授業例で効果的な授業評価・改善の方法について検討してみよう。                                                                                                                            |

|                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>テーマ④：授業実践（スクーリング）</b></p> <p>シラバス：第 10 回～第 13 回 テキスト：該当なし</p>                                                                                                                                                                          |
| <p><b>到達目標（何を学ぶか）</b></p> <p>スクーリング時に配付された教材を基に、授業デザイン、模擬授業、相互評価を実施し、レポート試験に向けて「学習指導案」等の作成方法について学ぶ。</p> <p><b>学修の進め方（どう学ぶか）</b></p> <p>スクーリングで指示する。</p> <p><b>研究課題</b></p> <p>スクーリングで指示する。</p>                                               |
| <p><b>テーマ⑤：授業研究と授業改善</b></p> <p>シラバス：第 14 回～第 15 回 テキスト：該当なし</p>                                                                                                                                                                             |
| <p><b>到達目標（何を学ぶか）</b></p> <p>スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成できる。</p> <p><b>学修の進め方（どう学ぶか）</b></p> <p>スクーリングで指示した方法に沿って学習指導案を作成する。</p> <p><b>研究課題</b></p> <p>スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案として作成してみよう。</p> |

#### 参考文献

- （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年
- （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- （４）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年

#### 併せてとりたい科目

教育方法・技術論（初等）  
各教科の指導法（初等）に関する科目

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                      |             |                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-------------|-----------------------|
| 授業科目名：<br>授業実践演習（中<br>等）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 教員の免許状取得のため<br>の選択科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：仲 久徳<br>担当形態：単独 |
| 実務内容<br>（実務家教員の場合）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                      |             |                       |
| 科 目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 大学が独自に設定する科目         |             |                       |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 特になし                 |             |                       |
| <p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p> |                      |             |                       |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を理解する。</li> <li>・ 授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。</li> <li>・ 授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。</li> <li>・ 授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                      |             |                       |
| <p>授業の概要</p> <p>テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                      |             |                       |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：授業デザインの基礎①－目標の分析・設定と評価規準・基準の設定</p> <p>第3回：授業デザインの基礎②－教材研究</p> <p>第4回：授業デザインの基礎③－指導形態、指導方法、指導過程</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                      |             |                       |

第5回：授業運営の方法と技術①－リーダーシップ、人間関係

第6回：授業運営の方法と技術②－授業マネジメント

第7回：授業運営の方法と技術③－授業コミュニケーション

第8回：授業評価の方法と技術①－量的分析

第9回：授業評価の方法と技術②－質的分析

第10回：授業実践①－授業デザイン

第11回：授業実践②－模擬授業

第12回：授業実践③－相互評価

第13回：授業実践④－学習指導案の作成

第14回：授業研究と授業改善

第15回：まとめ

定期試験

＊スクーリングでは、第10回～第13回を実施する。

テキスト

(1) 稲垣 忠・鈴木 克明 編著 (2015) 『授業設計マニュアル Ver.2－教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房

参考書・参考資料等

(1) 佐藤 学 (2010) 『教育の方法』左右社

(2) 田中耕治 他 (2012) 『新しい時代の教育方法』有斐閣

(3) 西岡加名恵 他編 (2015) 『新しい教育評価入門』有斐閣

(4) 秋田喜代美 『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012年

学生に対する評価：

レポート (25%)、スクーリング (25%)、科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する。



授業実践演習（中等）（担当：仲<sup>なか</sup> 久徳<sup>ひさのり</sup>）

E-mail: h\_naka@seisa.ac.jp

| 科目コード      | 単位数<br>( ) 内は<br>SC                                                                                                                                                                                                                                                                | レポート<br>(RE) | スクーリング<br>(SC) | 科目修得<br>試験 | 学修の順番 |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------|------------|-------|
| 542117     | 2 (0.5) 単位                                                                                                                                                                                                                                                                         | 1 本          | 1 日            | レポート方式     | RE→SC |
| 備考         | <p>【教員免許】 中学校（社会）・高等学校（公民）・中学校（保健体育）・高等学校（保健体育）「大学が独自に設定する科目」</p> <p>【レポートの事前提出】 <u>受講を希望するスクーリング日の1週間前までにレポートをオンライン、郵送（必着）のいずれかで提出してください。</u></p> <p><u>事前提出が確認できない場合、スクーリング受講はできないので注意すること。</u></p> <p>【オンデマンド視聴】この科目は、スクーリングの一部をオンデマンドで視聴し、それに関連する課題を作成して、対面スクーリング時に持参すること。</p> |              |                |            |       |
| スクーリングの持ち物 | 教科書、筆記用具、ノート                                                                                                                                                                                                                                                                       |              |                |            |       |
| 教科書        | 『授業設計マニュアルー教師のためのインストラクショナルデザイン (ver.2)』北大路書房                                                                                                                                                                                                                                      |              |                |            |       |
| キーワード      | 授業づくり、授業コミュニケーション、学習指導案                                                                                                                                                                                                                                                            |              |                |            |       |
| クラスコード     |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |              |                |            |       |

## ■授業の到達目標及びテーマ

- （１）授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術について理解する。
- （２）授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる。
- （３）授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。

## ■授業の概要

テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学び、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。

## ■学修の流れと進め方

### <学修の流れ>

- ①レポート提出後にスクーリングをオンデマンド、対面の順番で受講する。
- ②レポート合格及びスクーリング受講後、科目修得試験（レポート方式）を提出する。

### <学修の進め方>

- ①テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）、授業運営、授業評価の方法と技術を学ぶ。
- ②スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、実際に授業をデザインし、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。
- ③科目修得試験（レポート方式）に取り組む。

## ■レポート学修

### レポートのテーマ（2,000 字～3,000 字程度）

まず、「授業」とはどのような働きなのかについてあなたの考えを述べ、テキストを通して学んだことのうち、①「授業デザイン（授業設計）」、②「授業運営」の2点について、あなたが重要だと考えるポイントを説明し、なぜ、重要だと考えたのか説明してください。

### レポートの評価基準

- （1）レポートの字数は規程通りになっていること。
- （2）レポート構成は「序論」、「本論」、「結論」の構成になっていること。
- （3）「序論」では、「授業」の働きについて自らの考え方について述べていること。
- （4）「本論」では、「授業デザイン（授業設計）」、「授業運営」の2点において重要だと考えるポイントについてテキストの内容を参照して説明していること。
- （5）「結論」では、なぜ、重要だと思ったのか「序論」での「授業」の働きと関連付けて説明していること。
- （6）引用文献、参考文献等を文末に明記していること。（教科書も一つの文献として取り上げること。）

## ■スクーリング学修

### スクーリングの事前学修：

指定された教科書をよく読み、以下の「■学修の具体的な進め方」に掲げるテーマ①・②・③の学修およびレポート作成に取り組む。

### スクーリングでの学修内容：

当日配布する教材をもとにして授業コミュニケーションの核となる「発問」と「板書」に着目した授業をデザインし、参加者による模擬授業、討論を通して、効果的な授業づくりについて学ぶ。最後に、科目修得試験（レポート方式）に向けて学習指導案等の作成方法について学ぶ。

**スクーリングの事後学修：**

スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成し、科目修得試験（レポート方式）として提出する。

**■学修の具体的な進め方****テーマ①：授業デザインの基礎**

シラバス：第 1 回～第 4 回 テキスト：第 1 章～第 8 章

**到達目標（何を学ぶか）**

授業デザイン（授業設計）の基礎である「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から授業デザイン（授業設計）のポイントを説明できる。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

**研究課題**

- （１）テキストに沿って「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業デザイン（授業設計）について「学習目標の設定」、「教材研究」、「学習指導と評価」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

**テーマ②：授業運営の方法と技術**

シラバス：第 5 回～第 7 回 テキスト：第 9 章～第 12 章

**到達目標（何を学ぶか）**

授業運営の方法と技術に関して「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から効果的な授業運営のあり方を説明できる。

**学修の進め方（どう学ぶか）**

テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。

**研究課題**

- （１）テキストに沿って「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」のポイントをまとめよう。
- （２）具体的な授業例で効果的な授業運営について「教師の振る舞い」、「学習意欲」、「協同的な学びのデザイン」、「情報社会に適応する」の視点から自らの考え方や方法を検討してみよう。

**テーマ③：授業評価の方法と技術**

シラバス：第 8 回～第 9 回 テキスト：第 13 章～第 14 章

**到達目標（何を学ぶか）**

効果的な授業評価・改善の方法を説明できる。

|                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>学修の進め方（どう学ぶか）</b></p> <p>テキストを以下の「研究課題」に着目して読み進める。</p> <p><b>研究課題</b></p> <p>具体的な授業例で効果的な授業評価・改善の方法について検討してみよう。</p>                                                                                                                    |
| <p><b>テーマ④：授業実践（スクーリング）</b></p> <p>シラバス：第 10 回～第 13 回 テキスト：該当なし</p>                                                                                                                                                                          |
| <p><b>到達目標（何を学ぶか）</b></p> <p>スクーリング時に配付された教材を基に、授業デザイン、模擬授業、相互評価を実施し、科目修得試験に向けて「学習指導案」等の作成方法について学ぶ。</p> <p><b>学修の進め方（どう学ぶか）</b></p> <p>スクーリングで指示する。</p> <p><b>研究課題</b></p> <p>スクーリングで指示する。</p>                                               |
| <p><b>テーマ⑤：授業研究と授業改善</b></p> <p>シラバス：第 14 回～第 15 回 テキスト：該当なし</p>                                                                                                                                                                             |
| <p><b>到達目標（何を学ぶか）</b></p> <p>スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案を作成できる。</p> <p><b>学修の進め方（どう学ぶか）</b></p> <p>スクーリングで指示した方法に沿って学習指導案を作成する。</p> <p><b>研究課題</b></p> <p>スクーリングでの実践や省察を生かして、授業の研究や改善を自ら行い、その成果を活かした学習指導案として作成してみよう。</p> |

#### 参考文献

- （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年
- （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年
- （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年
- （４）田中耕治 他（2012）『新しい時代の教育方法』有斐閣

#### 併せてとりたい科目

教育方法・技術論（中等）  
各教科の指導法に関する科目

## 社会福祉施設における介護等体験 自己評価票

|         |                                                                                       |      |                             |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------|
| 施設名     |                                                                                       | 体験期間 | 年 月 日～ 月 日<br>( , , , , , ) |
| 体験の目標   | 【体験前に立てた課題やテーマ等】                                                                      |      |                             |
| 自己評価・感想 | <b>Q1</b> 体験の目標は達成できましたか？<br>(達成できたこと、できなかったこととその理由等を具体的に記入して下さい)。                    |      |                             |
|         |                                                                                       |      |                             |
|         | <b>Q2</b> 社会福祉施設や利用者に関するイメージが変わりましたか？<br>1 変わった      2 どちらともいえない      3 変わらない<br>(理由) |      |                             |
|         | <b>Q3</b> 今後の学生生活や教員になった時の参考になると思ったことがありますか？                                          |      |                             |
|         |                                                                                       |      |                             |
|         | <b>Q4</b> 全般的な感想や印象に残ったこと、今後の自分なりの課題等                                                 |      |                             |
|         |                                                                                       |      |                             |

|            |     |                 |   |      |   |           |   |      |   |    |
|------------|-----|-----------------|---|------|---|-----------|---|------|---|----|
| 施設での体験について | Q 1 | 今回の体験の満足度       |   |      |   |           |   |      |   |    |
|            | 1   | 満足              | 2 | やや満足 | 3 | どちらともいえない | 4 | やや不満 | 5 | 不満 |
|            | Q 2 | 受入側の対応や体験内容について |   |      |   |           |   |      |   |    |
|            | 1   | 満足              | 2 | やや満足 | 3 | どちらともいえない | 4 | やや不満 | 5 | 不満 |
|            | Q 3 | 施設への要望他（自由回答）   |   |      |   |           |   |      |   |    |
|            |     |                 |   |      |   |           |   |      |   |    |

|                 |    |   |     |  |
|-----------------|----|---|-----|--|
| 星槎大学 共生科学部 (専攻) |    |   |     |  |
| 学籍番号            | 学年 | 年 | 氏 名 |  |

# 教員を目指す人のために

-初等教育編-

To pursue your dream



星槎大学教職総合支援センター

## 入学から卒業までの流れ (1年次入学の場合)

|       | 学事日程                                   | 教員採用                                                | 教職関係                                       |
|-------|----------------------------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 1年次   | 4月 入学式(4月入学)<br>新入生オリエンテーション<br>履修登録   | 教職課程ガイダンス<br>学校ボランティアⅠ                              | (春の教員採用試験対策講座)                             |
|       | 10月 入学式(10月入学)<br>新入生オリエンテーション<br>履修登録 | 教職課程ガイダンス<br>学校ボランティアⅠ                              | (秋の教員採用試験対策講座)                             |
|       | 4月 履修登録                                | 学校ボランティアⅠ<br>介護福祉体験(前年に申込必要<br>2年次～4年次に実施可能)        | (春の教員採用試験対策講座)                             |
|       | 10月 履修登録                               |                                                     | (秋の教員採用試験対策講座)                             |
| 2年次   | 4月 履修登録                                | 学校ボランティアⅠ                                           | 春の教員採用試験対策講座                               |
|       | 5月                                     | 教育実習内語活動ガイダンス<br>内語活動事前試験<br>教育実習内語活動開始             | ふこはな教育系「アイ・カン<br>ンジ」<br>かながわティーチャーズ<br>クール |
|       | 10月 履修登録                               | (教育実習一括申込 一括<br>地域と学校履のみ)                           | 秋の教員採用試験対策講座                               |
|       | 4月 履修登録<br>共生研究または卒業論文                 | 教育実習ガイダンス<br>教育実習事前指導<br>教育実習<br>教育実習事後指導<br>教職実践演習 | 春の教員採用試験対策講座<br>採用試験<br>合格者発表              |
| 3年次   | 10月 履修登録                               | 教育実習事後指導<br>教職実践演習                                  | 採用試験<br>合格者発表                              |
|       | 3月 卒業                                  | 学校ボランティアⅡ<br>卒業認定                                   | 赴任先決定                                      |
|       | 9月 卒業                                  | 免許状申請                                               |                                            |
|       |                                        | 卒業認定                                                |                                            |
| 4月 月次 |                                        |                                                     |                                            |

# 入学から卒業までの (3年次編入学の場合)

|             |     | 学事日程                    | 教職関係                                                                 | 教員採用                                                |
|-------------|-----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 3<br>年<br>次 | 4月  | 入学式<br>履修登録             | 学校ボランティアⅠ<br>教職関係ガイダンス                                               | 春の教員採用試験対策講座<br>よこはま教研塾「アイ・カレッジ」<br>かながわティーチャーズスクール |
|             | 5月  |                         | 教育実習内務活動ガイダンス<br>内務活動事前面談<br>教育実習内務活動開始<br>(教育実習一括申込 一部地<br>域と学校種のみ) |                                                     |
|             | 10月 | 入学式<br>履修登録             | 教職関係ガイダンス<br>教育実習内務活動ガイダンス<br>内務活動事前面談<br>教育実習内務活動開始(～12月<br>項目迄)    | 秋の教員採用試験対策講座                                        |
|             | 4月  | 履修登録<br>共生研究または卒業<br>論文 | 教育実習ガイダンス<br>教育実習事前指導<br>教育実習・介護等体験<br>教育実習事後指導 教職実践<br>演習           | 春の教員採用試験対策講座<br>採用試験<br>合格者発表                       |
| 4<br>年<br>次 | 10月 | 履修登録                    | 学校ボランティアⅡ<br>卒業認定                                                    |                                                     |
|             | 3月  | 卒業                      | 免許状申請<br>卒業認定                                                        | 起任先決定                                               |
|             | 9月  | 卒業                      |                                                                      |                                                     |



## 目 次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 時代を築く教師たれ                         | 1  |
| 第1章 教員になるということ                    |    |
| この章のねらい                           | 2  |
| 1. 中央審議会の答申について                   | 2  |
| 2. 星槎大学の目指す教員像について                | 5  |
| 第2章 どのように学ぶか                      |    |
| この章のねらい                           | 7  |
| 1. カリキュラム・マネジメント                  | 8  |
| 2. 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点から） | 10 |
| 3. 新学習指導要領が示す深い学びの中核となる「見方・考え方」   | 12 |
| 4. 学習評価                           | 13 |
| 5. 特別の支援が必要な幼児・児童の理解              | 14 |
| 6. 国語科                            | 16 |
| 7. 社会科                            | 18 |
| 8. 算数科                            | 20 |
| 9. 理科                             | 22 |
| 10. 生活科                           | 24 |
| 11. 音楽科                           | 26 |
| 12. 図画工作科                         | 28 |
| 13. 家庭科                           | 30 |
| 14. 体育科                           | 32 |
| 15. 外国語活動・外国語科                    | 34 |
| 16. 特別の教科 道徳                      | 36 |
| 17. 総合的な学習の時間                     | 38 |
| 18. 特別活動                          | 40 |
| 第3章 学校の様子を知る                      |    |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| この章のねらい               | 44 |
| 1. 先生の1日              | 44 |
| 2. 学級づくりのスタート、年度初めの学級 | 45 |
| 3. 担任の配慮と工夫           | 46 |
| 4. 朝の会・帰りの会           | 47 |
| 5. 給食指導、清掃指導          | 48 |
| 6. 教室の環境づくり           | 50 |
| 7. 児童・生徒指導            | 51 |
| 8. 保護者・地域連携           | 53 |
| <参考>部活動(中学校・高等学校の場合)  | 56 |

#### 第4章 教育現場で学ぶ・自己を見つめる

|                            |    |
|----------------------------|----|
| この章のねらい                    | 59 |
| 1. 教育現場を知る ― 介護体験、学校ボランティア | 59 |
| 1) 介護体験                    | 59 |
| 2) 学校ボランティア                | 61 |
| 2. 教育現場を体験する ― 教育実習        | 77 |
| 3. 学びを振り返る ― 教職実践演習        | 88 |

#### 第5章 幼稚園教育を知る

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| この章のねらい                 | 92  |
| 1. 幼稚園教育の基本             | 93  |
| 2. 幼児教育の特性と幼稚園教育の役割     | 97  |
| 3. 心身の健康に関する領域「健康」      | 99  |
| 4. 人とかかわりに関する領域「人間関係」   | 101 |
| 5. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 | 103 |
| 6. 言葉の獲得に関する領域「言葉」      | 105 |
| 7. 感性と表現に関する領域「表現」(音楽)  | 107 |
| 8. 感性と表現に関する領域「表現」(造形)  | 109 |

横浜市大学連携・協働協議会資料（よこはま教育実践ボランティア）

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/bosyusaiyou/volunteer/jissenvolu.html>